

健康科学課

健康科学課は、細菌、ウイルス、臨床（表 1-1）及び理化学に関する試験検査業務と感染症情報センター、並びに研究所の管理運営業務を実施している。

細菌検査では、疾病対策事業に基づく検査と、食中毒・苦情及び感染症発生時の検査、収去食品、飲料水、プール水、河川水及び浴槽水等の試験検査、並びに調査研究を実施している。

ウイルス検査では、結核・感染症発生動向調査事業に基づく検査と、食中毒及び腸管感染症の発生時の検査、並びに調査研究を実施している。

臨床検査では、三歳児健康診査を令和 5 年 6 月まで実施した。

理化学検査では、食品・添加物、及び家庭用品の規格等についての試験検査、食中毒、苦情食品の理化学検査、飲料水及びプール水の水質検査、室内空気中の化学物質検査、並びに調査研究を実施している。

また、試験検査の信頼性確保を目的として、内部精度管理・外部精度管理を実施している。

感染症情報センターでは、結核・感染症発生動向調査事業に基づく感染症情報の収集・管理・分析等を行い、国に報告するとともに、ホームページ上で情報提供・公開（毎週更新）を行っている。

1 細菌検査

（１）疾病対策事業に基づく検査

保健所からの依頼により検査を実施した（表 1-2-1）。

腸管出血性大腸菌（EHEC）では 0157 等の届出があり菌陰性化確認、接触者の検査を実施した。026、0111、0157 の菌株については、MLVA 法による遺伝子解析を実施した。うち 1 株は検査の結果、毒素非産生であったため、届出が取り下げられた（表 1-2-2）。

カルバペネム耐性腸内細菌目細菌（CRE）では、耐性遺伝子の検出及び阻害剤を用いた β -ラクタマーゼ産生性の確認を実施した。カルバペネマーゼ産生株は確認されなかった（表 1-2-3）。

A 群溶血性レンサ球菌では、劇症型溶血性レンサ球菌感染症の分離株について、T 型別を実施し、内訳は T1 型 1 株、T12 型 1 株であった。また、国立感染症研究所での解析の結果、1 株が M1UK 株と判明した。

レジオネラ属菌では、浴槽水等の採水、ふきとり検体について分離同定を行った。また、患者由来の菌株については血清型等の検査を行い、菌株の相同性について、国立感染症研究所に SBT 検査を依頼した（表 1-2-4）。

その他、急性肝炎の原因調査として、便検体からサルモネラ属菌、カンピロバクター、病原大腸菌の検索を行った。原因菌として、検出されたものはなかった。

（２）食中毒・苦情及び感染症発生時の検査

食中毒・苦情及び感染症発生時の食品、糞便及

びふきとり検体等について細菌の検索を行った（表 1-3）。原因菌等として、検出されたものはなかった。

（３）収去食品等の検査

食品衛生法に基づく規格基準、食鳥処理の事業の規制及び食鳥検査に関する法律施行規則に基づく外部検証における食鳥とたい（食鳥肉）の微生物試験、千葉市の指導基準及び食品の汚染状況に係る細菌検査を実施した（表 1-4）。

（４）水質検査

水道法に基づく飲料水、千葉市遊泳用プール指導要綱に基づくプール水及び環境基本法等に基づく事業場排水、河川水、海水の細菌検査を実施した。

また、公衆浴場法及び特定建築物維持管理指導要綱に基づき、浴槽水、冷却塔水等のレジオネラ検査を実施した（表 1-5）。

（５）腸内細菌検査

保健所等からの依頼により職員及び給食従事者の定期検便等を実施した（表 1-6）。

2 ウイルス検査

（１）結核・感染症発生動向調査事業に基づく検査

保健所等からの依頼により検査を実施した（表 1-7）。

ア 麻しんウイルス及び風しんウイルス検査

保健所から依頼された咽頭ぬぐい液 33 検体、血液 30 検体及び尿 31 検体の計 94 検体について検査を実施した。その結果、麻しんウイルスは 1 症例 1 検体から検出され、風しんウイルスの検出はなかった。その内訳は、D8 型が 1 症例であった。

イ 新型コロナウイルス検査

保健所及び病原体定点から依頼された咽頭ぬぐい液 35 検体、鼻咽頭ぬぐい液 635 検体、喀痰 28 検体、髄液 18 検体、唾液 49 検体、血液 21 検体、尿 16 検体、糞便・直腸ぬぐい液 17 検体及びその他（気管吸引液 2 検体、検体の種類不明 7 検体）の計 828 検体について検査を実施した。その結果、新型コロナウイルスが咽頭ぬぐい液 1 検体、鼻咽頭ぬぐい液 272 検体、喀痰 1 検体、唾液 17 検体、糞便・直腸ぬぐい液 1 検体及びその他（検体の種類不明 2 検体）から検出された。また、ウイルスが検出された 294 検体について全ゲノム解析を実施した。

ウ その他のウイルス検査

保健所、病原体定点及び医療機関から依頼された咽頭ぬぐい液、糞便及び髄液等 623 検体について検査を実施した。

エ リケッチア検査

保健所から依頼された血液 7 検体、痲痺 5 検体の計 12 検体について検査を実施した。その結果、オリエンティア・ツツガムシが血液 1 検体、痲痺 1 検体から検出された。

(2) 食中毒・苦情及び感染症発生時の検査

食中毒・苦情及び感染症発生時の食品、糞便及び拭き取り検体等について、ノロウイルス及びその他のウイルス検査を実施した。また、ウイルスが検出された一部の検体について遺伝子解析（シーケンス）を実施した（表 1-8）。

3 臨床検査

三歳児健康診査

三歳児健康診査において、尿検査（一次、二次）を実施した（表 1-9）。

一次検査での有所見者（糖・蛋白・潜血反応が±以上、白血球・亜硝酸塩が+以上）を対象に、二次検査を実施した。

表 1-1 健康科学課（細菌・寄生虫・ウイルス・臨床）検査実施状況

		検 体 数
細菌	疾病対策事業	211
	食中毒・苦情及び感染症発生時	522
	収去食品等	400
	水質検査	833
	腸内細菌検査	161
寄生虫	食中毒・苦情及び感染症発生時	27
ウイルス	結核・感染症発生動向調査事業	858
	食中毒・苦情及び感染症発生時	964
臨床	三歳児健康診査（尿検査）	1,773
計		5,749

表 1-2-1 疾病対策事業に基づく細菌検査実施状況

検 査 項 目	検 体 数
EHEC	117
EHEC（菌株）	37
CRE	21
A 群溶血性レンサ球菌（菌株）	2
レジオネラ属菌	31
レジオネラ属菌（菌株）	2
その他	1
計	211

表 1-2-2 EHEC（菌株）検査実施状況（再掲）

血 清 型	検 体 数
043	1
084	1
0118	1
0145	1
0156	1
026	3
0111	7
0157	21
取下げ	1
計	37

表 1-2-3 CRE 検査実施状況（再掲）

菌 種	検 体 数	検出遺伝子型（数）
<i>Enterobacter sp.</i>	1	EBC（1）
<i>Enterobacter cloacae</i>	3	EBC（3）
<i>Escherichia coli</i>	1	TEM（1）CTX-M（1）
<i>Klebsiella pneumoniae</i>	1	TEM（1）、SHV（1）、CTX-M（1）
<i>Providencia rettgeri</i>	1	CTX-M（1）
計	7	

表 1-2-4 レジオネラ属菌検査実施状況（再掲）

検体種別	検体数	検出数	検出菌種（数）
採 水	26	5	<i>L.pneumophila</i> 1 群（2）、4 群又は 10 群（2）、6 群（1）、 <i>L.micdadei</i> （1）
ふきとり	5	0	
菌 株	2	2	<i>L.pneumophila</i> 1 群（2）
計	33	7	

表 1-3 食中毒・苦情及び感染症発生時の細菌検査実施状況（寄生虫を含む）

区 分		総数	食品	糞便	ふきとり	菌株
検 体 数		549	153	361	32	3
項 目 数		7,811	2,295	5,033	480	3
検 査 項 目	ビブリオ属菌	517	153	332	32	0
	黄色ブドウ球菌	519	153	334	32	0
	サルモネラ属菌	518	153	332	32	1
	カンピロバクター	517	153	332	32	0
	腸管出血性大腸菌	517	153	332	32	0
	病原大腸菌	517	153	332	32	0
	セレウス菌	519	153	334	32	0
	ウェルシュ菌	517	153	332	32	0
	エルシニア	517	153	332	32	0
	エロモナス	517	153	332	32	0
	ブレジオモナス	517	153	332	32	0
	赤痢菌	517	153	332	32	0
	コレラ菌	517	153	332	32	0
	チフス菌	517	153	332	32	0
	パラチフス菌	517	153	332	32	0
	MLVA	2	0	0	0	2
	寄生虫（クドア）	5	0	5	0	0
	寄生虫（ジアルジア）	22	0	22	0	0
	寄生虫（クリプトスポリジウム）	22	0	22	0	0
検 出 状 況	黄色ブドウ球菌	84	31	52	1	0
	（再掲）エンテロトキシン A	3	0	3	0	0
	エンテロトキシン B	3	0	3	0	0
	エンテロトキシン C	2	0	2	0	0
	エンテロトキシン AB	3	0	2	1	0
	<i>Salmonella</i> Saintpaul	2	0	1	0	1
	<i>Salmonella</i> Thompson	1	0	1	0	0
	<i>Campylobacter jejuni</i>	1	0	1	0	0
	<i>Campylobacter coli</i>	1	0	1	0	0
	腸管出血性大腸菌 0157	2	0	0	0	2
	（再掲）VT1、VT2	2	0	0	0	2
	セレウス菌	10	1	9	0	0
	（再掲）嘔吐毒遺伝子	6	1	5	0	0
	ウェルシュ菌	7	0	7	0	0
	寄生虫（クドア）	3	0	3	0	0

表 1-4 収去食品等の細菌検査実施状況

項目 分類	検体数	細菌数	腸内細菌科菌群数	大腸菌群	E.coli	E.coli 最確数	乳酸菌数	ビブリオ属菌	腸炎ビブリオ最確数	黄色ブドウ球菌	サルモネラ属菌	カンピロバクター	腸管出血性大腸菌	セレウス菌	リステリア	恒温試験	細菌試験	抗生物質（簡易法）	項目数
魚介類	33	9	-	1	-	9	-	87	25	-	-	-	-	-	-	-	-	6	137
冷凍食品 （無加熱摂取）	3	3	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6
冷凍食品 （凍結前加熱）	30	28	-	30	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	58
冷凍食品 （凍結前未加熱）	16	15	-	2	14	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	31
冷凍食品 （冷凍鮮魚介類）	5	-	-	4	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7
魚介類加工品	15	5	-	12	-	-	-	30	-	-	3	-	8	-	-	-	-	-	58
肉卵類及び その加工品	48	8	-	6	8	-	-	-	-	16	42	15	7	-	-	-	-	-	102
乳製品	12	5	-	11	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	21
アイスクリーム類	10	10	-	10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	20
穀類及び その加工品	15	14	-	7	8	-	-	18	-	14	3	3	3	1	-	-	-	-	71
野菜類・果実及び その加工品	56	29	-	26	23	-	-	96	-	14	-	-	23	-	-	-	-	-	211
菓子類	24	24	-	24	-	-	-	-	-	24	-	-	-	-	-	-	-	-	72
清涼飲料水	5	-	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
牛乳	5	5	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10
その他の食品	68	60	-	3	60	-	-	360	-	60	60	60	60	2	-	5	5	-	735
外部検証	55	55	55	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	110
計	400	270	55	149	113	9	4	594	25	128	108	78	101	3	1	5	5	6	1,654

表 1-5 水質細菌検査実施状況

項目 分類	検体数	一般細菌	嫌気性芽胞菌	大腸菌	大腸菌群	大腸菌群数	大腸菌数	EHEC O157	レジオネラ属菌	項目数
飲料水										
水道原水	110	3	91	107	-	-	-	-	-	201
水道水	233	231	2	233	-	-	-	-	-	466
井戸水	232	232	-	231	-	-	-	-	-	463
小 計	575	466	93	571	-	-	-	-	-	1,130
プール水	12	12	-	-	12	-	-	-	-	24
事業場排水	34	-	-	-	-	34	-	-	-	34
河川水、海水	166	-	-	-	-	-	164	2	-	166
浴槽水、冷却塔水等	46	-	-	-	-	-	-	-	46	46
計	833	478	93	571	12	34	164	2	46	1,400

表 1-6 腸内細菌検査実施状況

検 査 項 目	項 目 数	検 出 数
赤痢菌	126	0
チフス、パラチフス A 菌	126	0
腸管出血性大腸菌 O157	161	0
計	413	0

表 1-7 結核・感染症発生動向調査事業に係るウイルス等検査実施状況

		咽頭 ぬぐ い液	鼻咽頭 ぬぐい 液等	喀痰	糞 便 等	髄液	血液	尿	唾液	そ の 他	計
検 体 数	病原体定点	21	451	29	1	0	0	0	2	9	513
	保健所	49	194	0	17	18	59	48	47	7	439
	計	70	645	29	18	18	59	48	49	16	952
検 出 状 況	インフルエンザウイルス	3	129	0	1	0	0	0	0	0	133
	コクサッキーウイルス	3	2	1	3	0	0	0	2	1	12
	エムボックスウイルス	1	0	0	0	0	0	0	0	2	3
	ヒトパレコウイルス	0	1	0	1	0	0	1	0	0	3
	ヒトライノウイルス	1	44	9	1	0	1	0	0	3	59
	ヒトコロナウイルス	0	8	2	0	0	0	0	0	1	11
	新型コロナウイルス	1	273	1	1	0	0	0	17	1	294
	RS ウイルス	0	18	9	0	0	0	0	0	1	28
	ヒトメタニューモウイルス	1	14	6	0	0	0	0	0	1	22
	パラインフルエンザウイルス	2	10	2	0	0	0	0	0	1	15
	ヒトボカウイルス	1	12	3	0	0	0	0	0	1	17
	アデノウイルス	14	8	2	1	0	0	0	0	1	26
	ヒトヘルペスウイルス	1	1	0	0	0	2	2	0	0	6
	EB ウイルス	2	0	0	0	1	6	1	0	0	10
	サイトメガロウイルス	1	0	0	0	0	0	2	0	0	3
	アストロウイルス	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
	麻しんウイルス	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
	オリエンティア・ツツガムシ	0	0	0	0	0	1	0	0	1	2

表 1-8 食中毒・苦情及び感染症発生時のウイルス検査実施状況

		食品	糞便	吐物	拭き取り	その他	計
検 体 数	食中毒	360	392	0	96	1	849
	感染症	0	115	0	0	0	115
	計	360	507	0	96	1	964
項 目 別 検 体 数	ノロウイルス	358	505	0	91	0	954
	その他のウイルス(※)	214	466	0	47	1	728
	遺伝子解析	0	62	0	0	0	62
	計	572	1,033	0	138	1	1,744
検 出 状 況	ノロウイルス GⅠ	0	2	0	0	0	2
	ノロウイルス GⅡ	0	154	0	0	0	154
	サポウイルス	0	30	0	0	0	30

(※) その他のウイルス：サポウイルス、アストロウイルス、ロタウイルス及びアデノウイルス

表 1-9 三歳児健康診査

区 分 検 査 項 目		総 数	内 訳	
			一次	二次
尿	糖	1,773	1,665	108
	蛋白	1,773	1,665	108
	潜血反応	1,773	1,665	108
	白血球	1,773	1,665	108
	亜硝酸塩	1,773	1,665	108
	比重	1,665	1,665	0
	沈渣	108	0	108

4 理化学検査

保健所等からの依頼により検査を実施した。

(1) 食品等検査

検査総数は、食品等 253 検体、20,350 項目であった。

ア 添加物等検査

収去・買上検査として、甘味料 224 項目、着色料 1,491 項目、保存料 179 項目、酸化防止剤 108 項目、漂白剤・殺菌剤 16 項目、発色剤 16 項目、防ばい剤 1 項目、品質保持剤 11 項目、乳化剤 10 項目、合計 2,056 項目の検査を実施した(表 1-11-1)。

イ 乳等規格検査

乳及び乳製品等について、38 項目を実施した(表 1-11-1)。

ウ 器具及び容器包装規格検査

器具容器包装 6 検体 49 項目(器具容器包装の重金属検査 18 項目を含む)を実施した(表 1-11-1)。

エ 添加物規格検査

添加物及びその製剤 2 検体 11 項目を実施した(表 1-11-1)。

オ 清涼飲料水規格検査

清涼飲料水 5 検体 52 項目を実施した(表 1-11-1)。

カ 重金属検査

清涼飲料水、器具及び容器包装、魚介類など 21 検体について 63 項目(容器包装等規格検査の 18 項目、添加物規格の 2 項目及び清涼飲料水規格の 19 項目の重金属検査を含む)を実施した。

キ 自然毒検査

豆類等のカビ毒、及び貝毒について 12 検体 13 項目を実施した(表 1-11-1)。

ク 農産物等の残留農薬検査

収去・買上検査として、70 検体 17,190 項目、学校給食食材 8 検体 8 項目、全体として 261 種類の農薬について、合計 78 検体 17,198 項目の検査を実施した(表 1-11-1、表 1-11-2-1～3)。

ケ 畜水産物中の残留動物用医薬品検査

食肉(牛肉・豚肉・鶏肉)等 29 検体 536 項目(うち 2 検体 2 項目は学校給食食材)、魚介類(生食用カキ等) 15 検体 66 項目、全体として 23 種類の動物用医薬品について合計 44 検体 602 項目の検査を実施した(表 1-11-1、表 1-11-3)。

コ 組換え DNA 技術応用食品の検査

加工食品中における、安全性未審査の遺伝子組換えトウモロコシ(CBH351(スターリンク))の有無についての検査を、2 検体実施した(表 1-11-1)。

サ 食品中の放射性物質検査

東京電力福島第一原子力発電所の事故により放出された放射性物質による汚染状況を把握するため、流通食品 18 検体、2 種類の放射

性物質(セシウム 134、セシウム 137)について合計 36 項目の検査を実施した(表 1-11-1、表 1-11-4)。

シ 苦情食品検査

保健所から依頼された苦情食品検査は干しいも 1 検体で、農薬 250 項目を実施した(表 1-11-1、表 1-11-5)。

(2) 家庭用品の規格検査

「有害物質を含有する家庭用品の規制に関する法律」に基づき、ホルムアルデヒド等の項目について繊維製品 11 種 68 検体 99 項目、家庭用化学製品 3 種 6 検体 16 項目、合計 14 種 74 検体 115 項目の検査を実施した(表 1-12)。

(3) 飲料水等及び遊泳用プール水の水質検査

水道法の「水質基準に関する省令」に基づき、51 基準項目(31 健康項目+20 性状項目)、及び「千葉県遊泳用プール指導要綱」に基づきプール水の検査を実施した。

全検査件数は 628 件で、このうち飲料水等の水質検査は 615 件、プール水は 13 件であった(表 1-13-1)。

自家用井戸水の検査件数 236 件中 55 件(23.3%)で不適項目があった(表 1-13-2)。必須項目検査を実施した自家用井戸水(230 件)の検査結果を区別、項目別に集計した(表 1-13-3)。

検査を実施した飲料水等の検査項目別理化学検査の検体数と不適合数を集計した(表 1-13-4)。

プール水検査状況を集計した(表 1-13-5)。

表 1-11-1 食品理化学等検査実施状況

検査項目 検体の種類	総 検 体 数	添 加 物 等										乳等規格	容器包装等規格	添加物規格	清涼飲料水規格	重金属	自然毒	残留農薬	残留動物用医薬品	組換えDNA技術応用食品	放射性物質	その他	総 検 査 項 目 数
		甘味料	着色料	保存料	酸化防止剤	漂白・殺菌剤	発色剤	防ばい剤	品質保持剤	乳化剤													
魚 介 類	30	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	24	4	-	66	-	16	2	111	
魚介類加工品	21	32	219	29	6	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	291	
肉 卵 類 及 び その加工品	36	-	96	11	8	-	11	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	446	-	-	-	572	
乳 製 品	12	18	-	9	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	31	
乳 類 加 工 品	4	-	-	9	16	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	25	
アイスクリーム 類 ・ 氷 菓	10	20	120	-	-	-	-	-	-	-	10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	150	
穀 類 及 び その加工品	18	-	132	-	-	-	-	-	11	-	2	-	-	-	-	-	1,285	-	2	-	9	1,441	
野菜類・果物及 びその加工品	56	56	366	51	8	16	-	1	-	-	-	-	-	-	-	3	15,913	-	-	20	-	16,435	
菓 子 類	34	78	438	42	70	-	-	-	-	10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	638	
清 涼 飲 料 水	5	8	48	10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	52	-	-	-	-	-	-	-	118	
その他の食品	12	12	72	18	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	102	
添 加 物 及 び その製 剤	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	11	-	2	-	-	-	-	-	-	13	
器具容器包装	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	49	-	-	-	-	-	-	-	-	-	49	
生 乳	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	1	-	16	-	-	-	105	
牛 乳	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	20	-	-	-	-	5	-	80	-	-	-	0	
加工乳（乳脂肪 分 3 %未満）	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	
そ の 他 の 乳	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	
収去・買上等 計	252	224	1,491	179	108	16	16	1	11	10	38	49	11	52	26	13	17,198	608	2	36	11	20,100	
苦情食品等 計	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	250	-	-	-	-	250	
計	253	224	1,491	179	108	16	16	1	11	10	38	49	11	52	26	13	17,448	608	2	36	11	20,350	

表 1-11-2-1 農産物等の残留農薬検査（検体種別 収去・買上検査）

分 類	検 体 種	検体数	項目数
果実	いちご	2	484
穀類	小麦粉	5	1,285
豆類	らっかせい	3	693
野菜	カリフラワー	1	249
	かんしょ	1	250
	キャベツ	5	1,235
	きゅうり	1	249
	こまつな	4	996
	さといも	3	750
	サラダ菜	1	249
	セロリ	1	249
	その他ウリ科の野菜(冬瓜)	1	250
	その他野菜(れんこん)	4	1,000
	だいこん	3	768
	チンゲンサイ	1	250
	トマト	2	512
	なす	1	256
	なばな	1	250
	にら	1	248
	にんじん	7	1,799
	ねぎ	3	744
	はくさい	1	249
	ピーマン	1	249
	ブロッコリー	2	498
	ほうれんそう	4	996
	未成熟いんげん	1	249
	未成熟えんどう	1	249
	未成熟そらまめ	1	249
	レタス	1	249
	わけねぎ	2	496
茶	茶	5	940
計		70	17,190

表 1-11-2-2 農産物等の残留農薬検査（検体種別 学校給食食材）

分 類	検 体 種	検体数	項目数
野菜	キャベツ	2	2
	きゅうり	1	1
	こまつな	1	1
	トマト	1	1
	ねぎ	1	1
	はくさい	1	1
	ブロッコリー	1	1
計		8	8

表 1-11-2-3 農産物等の残留農薬検査（農薬別 収去・買上・学校給食食材検査数）

農薬名	検査数	農薬名	検査数	農薬名	検査数
1-ナフチルアセトアミド	65	ジフルベンズロン	70	フェンピロキシメート	70
EPN	70	シプロコナゾール	65	フェンブコナゾール	65
TCMTB	59	シペルメトリン	65	フェンプロパトリン	70
アクリナトリン	67	シマジン	70	フェンプロピモルフ	67
アザコナゾール	65	ジメチリモール	65	フェンメディファム	65
アザメチホス	44	ジメテナミド	70	フサライド	67
アジンホスメチル	70	ジメトエート	65	ブタクロール	70
アセタミプリド	65	ジメトモルフ	65	ブタフェナシル	70
アセトクロール	70	シメトリン	70	ブタミホス	70
アゾキシストロビン	65	ジメピペレート	70	ブプロフェジン	70
アトラジン	70	スピノサド	62	フラチオカルブ	70
アニロホス	70	スピロキサミン	70	フラムプロップメチル	70
アラクロール	70	スピロジクロフェン	15	フラメトピル	65
イサゾホス	70	ゾキサミド	63	フルアクリピリム	47
イソキサチオン	70	ターバシル	70	フルキンコナゾール	67
イソフェンホス	70	ダイアジノン	70	フルジオキシニル	70
イプロバリカルブ	65	ダイムロン	70	フルシトリネート	68
イプロベンホス	70	チアクロプリド	65	フルシラゾール	65
イマザメタベンズメチル	65	チアベンダゾール	60	フルチアセットメチル	54
イマザリル	65	チアメトキサム	65	フルトラニル	70
イミダクロプリド	65	チオベンカルブ	70	フルトリアホール	65
インドキサカルブ	70	チフルザミド	63	フルバリネート	67
ウニコナゾール p	70	ディルドリン	67	フルフェナセット	70
エスプロカルブ	70	テトラクロルビンホス	70	フルフェノクスロン	70
エタルフルラリン	67	テトラコナゾール	65	フルフェンピルエチル	70
エチオン	70	テトラジホン	70	フルミオキサジン	63
エディフェンホス	70	テニルクロール	70	フルミクロラックペンチル	63
エトキサゾール	70	テブコナゾール	65	プレチラクロール	70
エトフェンプロックス	63	テブチウロン	65	プロシミドン	70
エトフメセート	70	テブフェノジド	70	プロチオホス	67
エトプロホス	70	テブフェンピラド	70	プロパキザホップ	70
エポキシコナゾール	65	テフルトリン	70	プロパクロール	70
エンドリン	37	テフルベンズロン	70	プロパジン	70
オキサジアゾン	70	デルタメトリン	68	プロパニル	70
オキサジキシル	65	テルブトリン	47	プロパホス	56
オキサジクロメホン	70	テルブホス	67	プロピコナゾール	70
オキサミル	65	トラロメトリン	68	プロピザミド	70
オキシカルボキシ	21	トリアゾホス	70	プロヒドロジャスモン	31
オキシフルオルフェン	47	トリアレート	67	プロフェノホス	70
オメトエート	39	トリシクラゾール	57	プロポキシル	70
オリザリン	65	トリチコナゾール	65	ブロマシル	47
カズサホス	70	トリフルラリン	67	プロメトリン	70
カフェンストロール	68	トリフロキシストロビン	70	ブロモプロピレート	70
カルバリル (NAC)	70	トルクロホスメチル	70	ブロモホス	70
カルフェントラゾンエチル	65	トルフェンピラド	70	ブロモホスエチル	67
カルプロパミド	70	ナプロアニリド	70	ヘキサクロロベンゼン	2
カルボフラン	65	ニトロタールイソプロピル	70	ヘキサコナゾール	65
キナルホス	70	ノバルロン	65	ヘキサジノン	65
キノキシフェン	65	ノルフルラゾン	54	ヘキシチアゾクス	59
キノクラミン	70	パクロブトラゾール	70	ベナラキシル	70
キントゼン	56	パラチオン	70	ベノキサコール	70
クミルロン	70	パラチオンメチル	70	ヘプタクロル	67
クレソキシムメチル	42	ハルフェンプロックス	62	ペルタン	70
クロキントセットメキシル	70	ピコリナフェン	65	ペルメトリン	65
クロチアニジン	65	ビテルタノール	65	ペンコナゾール	70
クロフェンテジン	25	ビフェノックス	70	ペンシクロン	70
クロマゾン	70	ビフェントリン	43	ベンゾフェナップ	70

クロマフェノジド	70	ピペロホス	65	ベンダイオカルブ	70
クロメプロップ	70	ピラクロストロビン	70	ペンディメタリン	70
クロリダゾン	65	ピラクロホス	55	ベンフルラリン	67
クロルタールジメチル	70	ピラゾホス	65	ベンフレセート	70
クロルデン	67	ピラフルフェンエチル	57	ホサロン	70
クロルピリホス	78	ピリダフェンチオン	63	ボスカリド	70
クロルピリホスメチル	70	ピリダベン	70	ホスチアゼート	65
クロルフェナビル	70	ピリフェノックス	70	ホスファミドン	65
クロルフェンソン	70	ピリフタリド	70	ホスメット	70
クロルプロファミ	70	ピリブチカルブ	70	ホレート	62
クロルベンシド	67	ピリプロキシフェン	70	マラチオン	68
クロルベンジレート	70	ピリミカーブ	70	ミクロブタニル	65
クロロクスロン	65	ピリミノバックメチル	68	メタベンズチアズロン	70
シアゾファミド	70	ピリミホスメチル	70	メタラキシル	70
シアナジン	70	ピリメタニル	70	メチダチオン	70
シアノホス	70	ピロキロン	70	メチルジメトン	54
ジウロン (DCMU)	70	ビンクロゾリン	70	メトキシクロール	70
ジエトフェンカルブ	70	フィプロニル	70	メトキシフェノジド	70
ジクロシメット	62	フェナミホス	65	メトラクロール	68
ジクロフェンチオン	70	フェナリモル	65	メビンホス	65
ジクロホップメチル	70	フェニトロチオン	70	メフェナセット	70
ジクロラン	70	フェノキサプロップエチル	70	メフェンピルジエチル	70
ジスルホトン	52	フェノキシカルブ	59	メプロニル	70
シニドンエチル	57	フェノチオカルブ	70	モノクロトホス	65
シハロトリン	70	フェノブカルブ	70	ラクトフェン	70
シハロホップブチル	70	フェンアミドン	70	リニュロン	70
ジフェナミド	65	フェンクロルホス	70	ルフェヌロン	70
ジフェノコナゾール	65	フェンスルホチオン	65	レナシル	70
シフルトリン	70	フェンチオン	70		
シフルフェナミド	70	フェントエート	70		
ジフルフェニカン	70	フェンバレレート	70	計	17,198

表 1-11-3 畜水産物中の残留動物用医薬品検査

検 体 名 項 目 名	牛 乳	生 乳	鶏 卵	牛 肉	豚 肉	鶏 肉	ア ユ	マ ダ イ	コ イ	ニ ジ マ ス	ウ ナ ギ	ヒ ラ メ	ク ル マ エ ビ	ブ リ	ス ズ キ	生 食 用 カ キ	計
検 体 数	6	1	6	6	1	9	1	1	0	1	0	1	0	2	0	9	44
オキシテトラサイクリン	6	1	6	6	-	8	1	1	-	1	-	1	-	2	-	9	42
クロルテトラサイクリン	6	1	6	6	-	8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	27
テトラサイクリン	6	1	6	6	-	8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	27
スピラマイシン	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	2	-	-	3
スルファメラジン	6	1	6	6	-	8	1	1	-	1	-	1	-	2	-	-	33
スルファジミジン	6	1	6	6	1	9	1	1	-	1	-	1	-	2	-	-	35
スルファモノメトキシシ	6	1	6	6	-	8	1	1	-	1	-	1	-	2	-	-	33
スルファジメトキシシ	6	1	6	6	-	8	1	1	-	1	-	1	-	2	-	-	33
スルファキノキサリン	6	1	6	6	-	8	1	1	-	1	-	1	-	2	-	-	33
スルファジアジン	-	-	6	6	-	8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	20
スルファチアゾール	-	-	6	6	-	8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	20
スルファドキシシ	-	-	6	6	-	8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	20
スルファメトキサゾール	-	-	6	6	-	8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	20
オキシリン酸	6	1	-	6	-	8	1	1	-	1	-	1	-	2	-	-	27
チアンフェニコール	6	1	6	6	-	8	1	1	-	1	-	1	-	2	-	-	33
オルメトプリム	6	1	6	6	-	8	1	1	-	1	-	1	-	2	-	-	33
チアベンダゾール	6	1	6	6	-	8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	27
フルベンダゾール	6	1	6	6	-	8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	27
トリメトプリム	6	1	6	6	-	8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	27
5-プロピルスルホニル -1H-ベンズイミダゾール -2-アミン	6	1	6	6	-	8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	27
レバミゾール	6	1	6	6	-	8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	27
オフロキサシン	-	-	-	6	-	8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	14
オルビフロキサシン	-	-	-	6	-	8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	14
項 目 数	96	16	114	132	1	177	9	10	0	9	0	9	0	20	0	9	602

表 1-11-4 放射性物質検査

対 象 食 品	検体数	依頼元
流通食品	18	保健所（食品安全課）

表 1-11-5 苦情食品検査（理化学検査）

搬入月	検 体 の 種 類	検体数	検 査 項 目
8 月	干しいも	1	農薬（250 項目）

表 1-12 家庭用品検査

項 目 名 検 体 名		ホルム アルデヒド			有機水銀 ディルドリン トリフェニル錫化合物 水酸化カリウム・水酸化ナトリウム トリプチル錫化合物 メタノール テトラクロロエチレン トリクロロエチレン 容器試験 ジベンゾ（ <i>b</i> ・ <i>h</i> ）アントラセン ベンゾ（ <i>b</i> ）アントラセン ベンゾ（ <i>b</i> ）ピレン											項 目 数 合 計	検 体 数 合 計
		生後二十四ヶ月以下の乳幼児用	左記を除くもの	小 計													
織 維 製 品	おしめ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	おしめカバー	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	よだれ掛け	4	-	4	4	-	2	-	2	-	-	-	-	-	-	12	4
	下着	8	4	12	10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	22	12
	中衣	8	-	8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8	8
	外衣	4	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	4
	手袋	2	2	4	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8	4
	くつした	6	3	9	9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	18	9
	帽子	6	-	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6	6
	衛生パンツ	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1
	寝衣	12	2	14	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	14	14
	寝具	4	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	4
	家庭用毛糸	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	2
小 計		54	11	65	28	2	2	0	2	0	0	0	0	0	0	99	68
家 庭 用 化 学 製 品	家庭用接着剤	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	0
	くつしたどめ等接着剤	2	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	2
	家庭用塗料	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	0
	家庭用ワックス	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	0
	くつ墨・くつクリーム	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	0
	家庭用エアゾル製品	-	-	-	-	-	-	-	-	2	2	2	-	-	-	6	2
	家庭用洗淨剤	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	2	2	2	-	8	2
	防腐木材・防虫木材	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	0
	小 計		2	0	2	0	0	0	2	0	2	2	4	2	2	0	16
試験検査数		56	11	67	28	2	2	2	2	2	2	4	2	2	0	115	74
基準違反数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

表 1-13-1 飲料水等及びプール水の検査種別件数

検 体 名	検 査 種 別	一般依頼件数	行政依頼件数	合 計
飲料水等	全項目検査	6	0	6
	省略不可能項目検査	64	0	64
	必須項目検査	376	6	382
	有機塩素系検査	0	0	0
	給水設備関連項目検査	10	0	10
	消毒副生成物検査	6	0	6
	原水項目検査	3	0	3
	単項目検査（細菌検査を含む）	143	1	144
	小 計	608	7	615
プール水		13	0	13
計		621	7	628

表 1-13-2 飲料水等の検体種別検査結果

検体種別	検査件数	適合件数	不適合件数	不適合率（％）
自家用井戸水	236	181	55	23.3
専用水道原水	88	87	1	1.1
専用水道浄水	233	232	1	0.4
小規模専用水道原水	6	5	1	16.7
小規模専用水道浄水	11	11	0	0.0
簡易専用水道水	21	21	0	0.0
その他	20	20	0	0.0
計	615	557	58	9.4

表 1-13-3 自家用井戸水における区別必須項目検査結果

項目 区名	検査 件数	不 適合 数	不 適合 率 (%)	項 目 別 不 適 合 数									
				一般 細菌	大腸 菌	亜硝酸 態窒素	硝酸・ 亜硝酸 態窒素	塩素 イオン	有機 物	pH 値	臭気	色度	濁度
中央区	40	9	22.5	4	2	-	3	-	-	-	-	1	1
花見川区	11	4	36.4	2	-	-	4	-	-	-	-	-	-
稲毛区	17	8	47.1	6	-	-	2	-	-	-	-	-	-
若葉区	108	20	18.5	10	1	1	7	-	-	1	-	2	-
緑区	52	10	19.2	7	1	1	2	-	1	1	-	1	2
美浜区	1	0	0.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
千葉市外	1	0	0.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
計	230	51	22.2	29	4	2	17	0	1	2	0	4	3

表 1-13-4 項目別飲料水等理化学検査

項 目		検体数	不適合数	不適合率(%)
健康に 関 す る 項 目	カドミウム及びその化合物	9	0	-
	水銀及びその化合物	9	0	-
	セレン及びその化合物	9	0	-
	鉛及びその化合物	20	0	-
	ヒ素及びその化合物	18	0	-
	六価クロム化合物	9	0	-
	亜硝酸態窒素	465	2	0.4
	シアン化物イオン及び塩化シアン	79	0	-
	硝酸態窒素及び亜硝酸態窒素	466	18	3.9
	フッ素及びその化合物	9	0	-
	ホウ素及びその化合物	9	0	-
	四塩化炭素	9	0	-
	1,4-ジオキサン	9	0	-
	シス1,2-ジクロロエチレン及びトランス1,2-ジクロ ロエチレン	9	0	-
	ジクロロメタン	9	0	-
	テトラクロロエチレン	9	0	-
	トリクロロエチレン	9	0	-
	ベンゼン	9	0	-
	塩素酸	76	0	-
	クロロ酢酸	76	0	-
	クロロホルム	76	0	-
	ジクロロ酢酸	76	0	-
	ジブロモクロロメタン	76	0	-
	臭素酸	76	0	-
	総トリハロメタン	76	0	-
	トリクロロ酢酸	76	0	-
	ブロモジクロロメタン	76	0	-
	ブロモホルム	76	0	-
	ホルムアルデヒド	76	0	-
性 状 に 関 す る 項 目	亜鉛及びその化合物	19	0	-
	アルミニウム及びその化合物	9	0	-
	鉄及びその化合物	30	0	-
	銅及びその化合物	19	0	-
	ナトリウム及びその化合物	9	0	-
	マンガン及びその化合物	28	2	7.1
	塩化物イオン	465	0	-
	カルシウム、マグネシウム等（硬度）	9	0	-
	蒸発残留物	19	0	-
	陰イオン界面活性剤	9	0	-
	ジェオスミン	9	0	-
	2-メチルイソボルネオール	9	0	-
	非イオン界面活性剤	9	0	-
	フェノール類	9	0	-
	有機物（全有機炭素（TOC）の量）	465	1	0.2
	pH値	465	2	0.4
	臭気	468	4	0.8
	色度	465	4	0.9
	濁度	465	3	0.6
計		4981	36	

表 1-13-5 プール水検査

検 査 項 目	検体数
pH値	12
濁度	12
有機物等（過マンガン酸カリウム消費量）	12
総トリハロメタン	1
計	37

5 精度管理

試験検査の信頼性確保を目的として、精度管理を実施した（表 1-14-1）。

また、試験検査及び使用する機器類の保守点検は、「標準作業書」に基づき実施した。「標準作業書」は常に見直し、必要な改訂を実施した。

（１）細菌検査

ア 内部精度管理

検査精度確認のため、生菌数検査を年 5 回実施した。

イ 外部精度管理

- (7) 第三者機関である一般財団法人食品薬品安全センターから送付された検体について、微生物学的検査（E. coli）を実施した。
- (4) 令和 5 年度厚生労働科学研究補助金健康安全・危機管理対策総合研究事業「公衆浴場の衛生管理の推進のための研究」における「レジオネラ属菌検査の精度管理の調査研究」に参加した。
- (5) 厚生労働科学研究（食品の安全確保推進研究事業）「食中毒調査の迅速化・高度化及び広域食中毒発生時の早期探知等に資する研究」における精度管理試験（腸管出血性大腸菌の反復配列多型解析法）に参加した。

（２）ウイルス検査

ア 外部精度管理

- (7) 国立感染症研究所が実施する厚生労働省外部精度管理事業（令和 5 年度）「課題 1 新型コロナウイルスの次世代シーケンシング（NGS）による遺伝子の解説・解析」に参加した。

- (4) 国立感染症研究所が実施する厚生労働省外部精度管理事業（令和 5 年度）「課題 2 麻しん・風しんウイルスの核酸検出検査」に参加した。
- (5) 国立感染症研究所が実施する「インフルエンザウイルス分離培養・亜型同定技術実態調査（iTips 2023）」に参加した。

（３）理化学検査

内部精度管理は検査試行毎の精度確認として、外部精度管理は、擬似食品等の測定値を他の参加検査施設と比較することにより実施した（表 1-14-2）。

ア 食品等検査

(7) 内部精度管理

試験品の検査頻度に応じ、検査項目ごとに添加回収試験を実施した。

(4) 外部精度管理

第三者機関である一般財団法人食品薬品安全センターから送付された 1 検体 1 項目について検査を実施した。

イ 飲料水等検査

(7) 内部精度管理

約 10 試料ごと及び全ての試験終了後に一定濃度の標準試料について試験を行い、測定が規定値内であることを確認した。

(4) 外部精度管理

千葉県水道水質管理連絡協議会が実施する外部精度管理に参加し、2 検体 2 項目について実施した。

表 1-14-1 精度管理

検 体 種 別	根 拠 規 程
感染症の患者の検体等	千葉県病原体等検査業務要領
千葉県食品衛生監視指導計画に基づく収去食品等	千葉県食品衛生検査施設における検査等の業務管理要領
千葉県家庭用品監視指導要領に基づく検体	千葉県家庭用品監視指導要領
飲料水等	水質基準に関する省令の規定に基づき厚生労働大臣が定める方法（平成 15 年厚生労働省告示第 261 号）

表 1-14-2 理化学検査における精度管理

区 分	内部精度管理		外部精度管理		
	頻 度	内 容	検体数 項目数	内 容	実施機関
食品等	検査 実施毎	定性試験	1 検体 1 項目	・果実ペースト中の酸性タール 色素中の許可色素	一般財団法人食品 薬品安全センター
飲料水		約 10 試料ごと及 び全ての試験終 了後の標準試料 測定	2 検体 2 項目	・ 臭素酸 ・ 色 度	千葉県水道水質管理 連絡協議会 (水質検査精度管理 委員会)

6 感染症情報センター

感染症情報センターは、感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律（以下「感染症法」という。）に基づく「感染症発生動向調査事業実施要綱」の規定により、多様な感染症の発生及びまん延を防止し、適切な感染症対策を立案することを目的に、感染症の発生情報の把握と分析、及び病原体情報の収集、分析を行い、その結果を国に報告するとともに、保健所、医療機関等の関係者への還元・提供、ホームページで公開している。

事業は年単位（毎年1月から12月まで）で実施しているが、冬期に流行するインフルエンザについてはシーズン単位（第36週（9月）から翌年の第35週（8月）まで）で集計・解析している。

新型コロナウイルス感染症は、令和5年4月28日の「感染症法施行規則」の一部改正により、同年5月8日付けで「新型インフルエンザ等感染症」から「5類感染症」に分類が変更となり、すべての医療機関から患者の報告を受ける全数把握から、週に1回、特定の医療機関から患者の報告を受ける定点把握に移行した。これにより、2023年の感染症発生動向調査の対象感染症は、全数把握対象感染症が91疾患、定点把握対象感染症が26疾患（5類の一部25疾患及び疑似症）となっている。調査対象感染症一覧（表1-15）。

（1）全数把握対象感染症の発生状況

全数把握感染症の月別届出数（表1-16）、及び過去5年の年別届出数（表1-17）。

概要は次のとおり。

ア 二類感染症

（ア）結核

届出数は116例で2022年より減少。無症状病原体保有者の割合は2020年以降緩やかな増加傾向（図1-1-1）。男性66例（56.9%）、女性50例（43.1%）、年齢中央値は全体で60歳、男性は66.5歳、女性は63歳（図1-1-2）。

イ 三類感染症

（イ）腸管出血性大腸菌感染症

届出数は39例で2022年より増加し、過去5年で最多。溶血性尿毒症症候群（HUS）の発症は2例（図1-2-1）。年間の届出数に占める性別の割合は、2019年以降女性がほぼ60%以上（図1-2-2）。男性16例（41.0%）、女性23例（59.0%）、年齢中央値は25歳で、20歳代が最多（10例25.6%）（図1-2-3）。

ウ 四類感染症

（ウ）E型肝炎

届出数は10例で2022年より減少。患者が8例、無症状病原体保有者が2例。男性9例、女性1例で、50歳代以上（図1-3）。

（イ）エムボックス

令和5年5月26日の「感染症法施行令」の一部改正により、同年同日付けで名称が「サル痘」から「エムボックス」に変更された。

届出数は3例で調査開始以来初めて。全て男

性で20歳代、30歳代及び40歳代が各1例であり、推定感染地域は全て国内。

（ウ）コクシジオイデス症

届出数は4例で2019年以降の届出。全て男性で20歳代が3例、40歳代が1例。推定感染地域はアメリカ合衆国アリゾナ州3例、メキシコ1例。

（エ）つつが虫病

届出数は1例で2022年と同数。感染経路は、県内でダニに刺咬されたものと推定。

（オ）レジオネラ症

届出数は6例で2022年より減少。病型は全て肺炎型。全て男性で、40歳代以上。年齢中央値は73歳（図1-4）。

エ 五類感染症

（ア）アメーバ赤痢

届出数は2例で2022年より減少。病型は全て腸管アメーバ症。全て男性で、40歳代、60歳代が各1例。

（イ）ウイルス性肝炎

届出数は5例で2021年以降の届出。病型は全てC型（図1-5-1）。全て男性で、50歳代以上（図1-5-2）。

（ウ）カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症

令和5年5月26日の「感染症法施行規則」の一部改正により、同年同日付けで名称が「カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症」から「カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症」に変更された。

届出数は22例で2022年より増加し、過去5年で最多（図1-6-1）。男性が16例（72.7%）、女性が6例（27.3%）で、70歳代（8例36.4%）が最多（図1-6-2）。菌検出（重複あり）は、通常無菌的であるべき検体から6例（27.3%：*Klebsiella aerogenes* 4例、*Escherichia coli* 1例、*Enterobacter cancerogenus* 1例）、通常無菌的ではない検体から17例（72.7%：*K. aerogenes* 5例、*K. pneumoniae* 3例、*E. cloacae* 3例、*ECitrobacter braakii* 2例、*Serratia marcescens*、*Proteus vulgaris*、*Providencia rettgeri*、及び *Enterobacter sp* が各1例）（図1-6-3、図1-6-4）。

（エ）急性脳炎

届出数は15例で2022年より増加。男性が8例（53.3%）、女性が7例（46.7%）。10歳未満が13例（86.7%）（図1-7）。

（オ）クロイツフェルト・ヤコブ病（CJD）

届出数は3例で2021年以降の届出。男性が1例、女性が2例で、50歳代、60歳代及び70歳代が各1例。病型は、古典型CJD、家族性CJD及び医原性CJDが各1例。

（カ）劇症型溶血性レンサ球菌感染症

届出数は8例で2022年より増加。男女各4例で、0歳代及び40歳代が各1例、60歳代、70歳代及び80歳代が各2例（図1-8-1）。病原体の血清群は、A群が6例、B群及びG群が各1例（図1-8-2）。

（キ）後天性免疫不全症候群（HIV感染症を含む）

届出数は3例で2022年より増加。全て男性で、20歳代が2例、40歳代が1例。病型はAIDS、その他及び無症候性キャリアが各1例。

(ク) ジアルジア症

届出数は1例で2022年と同数。感染経路は不明。

(ケ) 侵襲性インフルエンザ菌感染症

届出数は4例で2022年より増加。男性3例、女性1例で、0歳代及び50歳代が各2例。

(コ) 侵襲性髄膜炎菌感染症

届出数は1例で2018年以降の届出。0歳代の男児で、ワクチン接種歴は不明。

(カ) 侵襲性肺炎球菌感染症

届出数は9例で2022年より減少。男性5例、女性4例で、60歳代が最も多く3例、次いで40歳代及び70歳代が各2例(図1-9)。

(シ) 水痘(入院例)

届出数は1例で2022年より減少。男性70歳代。ワクチン接種歴は不明。

(ス) 梅毒

届出数は71例で2022年より増加し、過去5年で最多。男性46例(64.8%)、女性25例(35.2%)(図1-10-1)。年齢中央値は全体39歳、男性41歳、女性23歳(図1-10-2)。推定感染経路が性的接触66例(93.0%)におけるパートナーは、同性8例(12.1%)、異性45例(68.2%)、不明10例(15.2%)、記載なし3例(4.5%)であり、異性パートナーの占める割合は2022年以降増加(図1-10-3)。病型は、男性で早期顕症梅毒(I期)6例(13.0%)、早期顕症梅毒(II期)28例(60.9%)、晩期顕症梅毒2例(4.4%)、無症状病原体保有者10例(21.7%)、女性で早期顕症梅毒(I期)1例(4.0%)、早期顕症梅毒(II期)11例(44.0%)、晩期顕症梅毒0例、無症状病原体保有者13例(52.0%)。年代別の病型の分布は、男性では早期顕症梅毒(I期)が20歳代から60歳代まで見られたが、女性では早期顕症梅毒(I期)が10歳代と20歳代のみで、50歳代以上は無症状病原体保有者のみであった(図1-10-4、図1-10-5)。

(セ) 播種性クリプトコックス症

届出数は3例で、2019年以降の届出。男性が2例、女性が1例で、40歳代、70歳代及び80歳代が各1例。

(ソ) 百日咳

届出数は1例で、2022年と同数。10歳代でワクチン接種歴は4回。

(タ) 麻しん

届出数は1例で2021年以降の届出。20歳代男性。検出されたウイルスの遺伝子型はD8。ワクチン接種歴は2回。国外への渡航歴は確認されていない。

オ 新型インフルエンザ等感染症

(7) 新型コロナウイルス感染症(COVID-19)

令和5年4月28日の「感染症法施行規則」の一部改正により、同年5月8日付けで「新型インフルエンザ等感染症」から「5類感染症」

に分類が変更となったことから、新型インフルエンザ等感染症としての届出は1月1日から5月7日まで。

届出対象は、令和4年9月26日から引き続き①65歳以上の者(以下「65歳以上」という。)
②入院を要する者(以下「要入院」という。)
③重症化リスクがあり、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)治療薬の投与又は新たに酸素投与が必要と医師が判断する者(以下「重症化リスク」という。)
④妊婦⑤新型コロナウイルス感染症により死亡した患者(当該感染症により死亡したと疑われる者を含む。)の死体(以下「死体」という。)に限定。

届出数は6,135例で、性別その他又は未選択26例を除く6,109例中、65歳以上が5,150例(84.3%)、65歳未満の者(以下「65歳未満」という)が959例(15.7%)。

65歳以上5,150例について、月別の届出数は、1月(3,746例、72.7%)が最多(図1-11-1)。男性2,308例(44.8%)、女性2,842例(55.2%)。年齢中央値は77歳。類型別では、「65歳以上」のみ3,823例(74.2%)、要入院及び重症化リスクを含む事例(以下「要入院・重症化リスクあり」という。)114例(2.2%)、要入院を含む事例(以下「要入院あり」という。)622例(12.1%)、重症化リスクを含む事例(以下「重症化リスクあり」という。)576例(11.2%)、死体15例(0.3%)(図1-11-2)。

65歳未満959例について、月別の届出数は、1月(675例、70.4%)が最多(図1-11-3)。男性395例(41.2%)、女性564例(58.8%)。年齢中央値は45歳、年代別では50歳代259例(27.0%)が最も多く、次いで30歳代214例(22.3%)、40歳代156例(16.3%)(図1-11-4)。類型別では、妊婦266例(27.7%)、妊婦以外693例(72.3%)。妊婦266例について、「妊婦」のみ253例(95.1%)、「要入院あり」5例(1.9%)、「重症化リスクあり」8例(3.0%)(図1-11-5)。妊婦以外693例について、「要入院・重症化リスクあり」24例(3.5%)、「要入院あり」256例(36.9%)、「重症化リスクあり」412例(59.5%)、死体1例(0.1%)(図1-11-6)。

(2) 定点把握対象の感染症

定点把握感染症(小児科)報告数の年別推移(図2-1)、定点把握感染症(インフルエンザ・COVID-19)報告数のシーズン別推移及び型別迅速診断結果(インフルエンザ)及び年間報告数の推移(新型コロナウイルス感染症)(図2-2-1~3)、定点把握感染症(眼科)報告数の年別推移(図2-3)、定点把握性感染症の月別報告数(表1-18)、定点把握感染症(基幹)報告数の年別推移(図2-4)、並びに基幹定点把握感染症の月別報告数(表1-19)。概要は次のとおり。

ア 五類感染症

(7) RSウイルス感染症

定点当たり報告数(年平均)は0.27で2022

年(0.33)より減少(過去5年の平均は0.28)。
発生動向は、第26週(1.94)にピークを迎え、
2021年、2022年とほぼ同様(図2-1)。

(イ) 咽頭結膜熱

定点当たり報告数(年平均)は0.54で2022年(0.03)より増加(過去5年の平均は0.21)。
発生動向は、第37週(0.61)から連続して過去5年の同時期と比べ最多となり、その後も増加し続け第51週(2.89)にピークを迎え、
現行の調査方法開始(1999年)以来の最多となった(図2-1)。

(ウ) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

定点当たり報告数(年平均)は1.65で2022年(0.24)より増加(過去5年の平均は1.09)。
発生動向は、第39週(1.72)から連続して過去5年の同時期と比べ最多となり、その後も増加し続け第50週(7.83)にピークを迎え、
現行の調査方法開始(1999年)以来の最多となった(図2-1)。

(エ) 感染性胃腸炎

定点当たり報告数(年平均)は7.36で2022年(4.80)より増加(過去5年の平均は4.33)。
発生動向は、第18週(4.18)から第50週(10.50)まで過去5年の同時期と比べて最多で推移。
第3週(15.06)、第26週(12.94)、第49週(12.94)の3回のピークを迎えた(図2-1)。

(オ) ヘルパンギーナ

定点当たり報告数(年平均)は1.64で2022年(0.15)より増加(過去5年の平均は0.47)。
発生動向は、第18週(0.12)から第34週(1.22)まで連続して過去5年の同時期と比べて最多となり、第28週(13.24)にピークを迎えた(図2-1)。

(カ) インフルエンザ

(2023年36週から2024年35週)

定点当たり報告数(シーズン平均)は9.74で、2022-2023シーズン(2.30)より増加(過去5年の平均は2.80)。発生動向は、シーズン開始の2023年第36週から2024年第15週まで、2024年第2週を除き過去5年の同時期と比べ最多の状態が続いた。2023年第37週(11.93)に流行発生注意報基準値(10.0)を上回り、2024年第13週(13.96)まで続いたが、流行発生警報開始基準値(30.0)は上回らなかった。2023年第50週(24.54)、2024年第11週(22.32)の2回のピークを迎えた(図2-2-1、図2-2-2)。

(キ) 新型コロナウイルス感染症(COVID-19)

令和5年5月8日(第19週)から感染症法上の位置付けが5類となり、すべての医療機関から患者の報告を受ける全数把握から、週に1回、特定の医療機関から患者の報告を受ける定点把握に移行した。第20週(3.30)から増加傾向となり、第36週(26.57)にピークを迎えた。その後第46週(1.07)まで減少、第47週以降は緩やかに増加(図2-2-3)。

表1-15 調査対象感染症一覧（2023年12月31日現在）

No	感染症 類型	対象感染症	届出方法		届出対象		
			種別	時期	患者	疑似症 患者	無症状病原 体保有者
1	一類	エボラ出血熱	全数	直ちに	○	○	○
2		クリミア・コンゴ出血熱	全数	直ちに	○	○	○
3		痘そう	全数	直ちに	○	○	○
4		南米出血熱	全数	直ちに	○	○	○
5		ペスト	全数	直ちに	○	○	○
6		マールブルグ病	全数	直ちに	○	○	○
7		ラッサ熱	全数	直ちに	○	○	○
8	二類	急性灰白髄炎	全数	直ちに	○		○
9		結核	全数	直ちに	○	○	○
10		ジフテリア	全数	直ちに	○		○
11		重症急性呼吸器症候群 *1	全数	直ちに	○	○	○
12		中東呼吸器症候群 *2	全数	直ちに	○	○	○
13		鳥インフルエンザ（H5N1）	全数	直ちに	○	○	○
14		鳥インフルエンザ（H7N9）	全数	直ちに	○	○	○
15	三類	コレラ	全数	直ちに	○		○
16		細菌性赤痢	全数	直ちに	○		○
17		腸管出血性大腸菌感染症	全数	直ちに	○		○
18		腸チフス	全数	直ちに	○		○
19		パラチフス	全数	直ちに	○		○
20	四類	E型肝炎	全数	直ちに	○		○
21		ウエストナイル熱 *3	全数	直ちに	○		○
22		A型肝炎	全数	直ちに	○		○
23		エキノコックス症	全数	直ちに	○		○
24		エムボックス	全数	直ちに	○		○
25		黄熱	全数	直ちに	○		○
26		オウム病	全数	直ちに	○		○
27		オムスク出血熱	全数	直ちに	○		○
28		回帰熱	全数	直ちに	○		○
29		キャサヌル森林病	全数	直ちに	○		○
30		Q熱	全数	直ちに	○		○
31		狂犬病	全数	直ちに	○		○
32		コクシジオイデス症	全数	直ちに	○		○
33		ジカウイルス感染症	全数	直ちに	○		○
34		重症熱性血小板減少症候群 *4	全数	直ちに	○		○
35		腎症候性出血熱	全数	直ちに	○		○
36		西部ウマ脳炎	全数	直ちに	○		○
37		ダニ媒介脳炎	全数	直ちに	○		○
38		炭疽	全数	直ちに	○		○
39		チクングニア熱	全数	直ちに	○		○
40		つつが虫病	全数	直ちに	○		○
41		デング熱	全数	直ちに	○		○
42		東部ウマ脳炎	全数	直ちに	○		○
43		鳥インフルエンザ *5	全数	直ちに	○		○
44		ニパウイルス感染症	全数	直ちに	○		○
45		日本紅斑熱	全数	直ちに	○		○
46		日本脳炎	全数	直ちに	○		○
47		ハンタウイルス肺症候群	全数	直ちに	○		○

No	感染症 類型	対象感染症	届出方法		届出対象		
			種別	時期	患者	擬似症 患者	無症状病原 体保有者
48	四類	Bウイルス病	全数	直ちに	○		○
49		鼻疽	全数	直ちに	○		○
50		ブルセラ症	全数	直ちに	○		○
51		ベネズエラウマ脳炎	全数	直ちに	○		○
52		ヘンドラウイルス感染症	全数	直ちに	○		○
53		発しんチフス	全数	直ちに	○		○
54		ボツリヌス症	全数	直ちに	○		○
55		マラリア	全数	直ちに	○		○
56		野兔病	全数	直ちに	○		○
57		ライム病	全数	直ちに	○		○
58		リッサウイルス感染症	全数	直ちに	○		○
59		リフトバレー熱	全数	直ちに	○		○
60		類鼻疽	全数	直ちに	○		○
61		レジオネラ症	全数	直ちに	○		○
62		レプトスピラ症	全数	直ちに	○		○
63		ロッキー山紅斑熱	全数	直ちに	○		○
64	五類	アメーバ赤痢	全数	7日以内	○		
65		ウイルス性肝炎 *6	全数	7日以内	○		
66		カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	全数	7日以内	○		
67		急性弛緩性麻痺 *7	全数	7日以内	○		
68		急性脳炎 *8	全数	7日以内	○		
69		クリプトスポリジウム症	全数	7日以内	○		
70		クロイツフェルト・ヤコブ病	全数	7日以内	○		
71		劇症型溶血性レンサ球菌感染症	全数	7日以内	○		
72		後天性免疫不全症候群	全数	7日以内	○		○
73		ジアルジア症	全数	7日以内	○		
74		侵襲性インフルエンザ菌感染症	全数	7日以内	○		
75		侵襲性髄膜炎菌感染症	全数	直ちに	○		
76		侵襲性肺炎球菌感染症	全数	7日以内	○		
77		水痘 *9	全数	7日以内	○		
78		先天性風しん症候群	全数	7日以内	○		
79		梅毒	全数	7日以内	○		○
80		播種性クリプトコックス症	全数	7日以内	○		
81		破傷風	全数	7日以内	○		
82		バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	全数	7日以内	○		
83		バンコマイシン耐性腸球菌感染症	全数	7日以内	○		
84		百日咳	全数	7日以内	○		
85		風しん	全数	直ちに	○		
86		麻しん	全数	直ちに	○		
87		薬剤耐性アシネトバクター感染症	全数	7日以内	○		
88		R S ウイルス感染症	定点	翌週の月曜日	○		
89		咽頭結膜熱	定点	翌週の月曜日	○		
90		インフルエンザ *10	定点	翌週の月曜日	○		
91		A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	定点	翌週の月曜日	○		
92		感染性胃腸炎	定点	翌週の月曜日	○		
93		急性出血性結膜炎	定点	翌週の月曜日	○		
94		クラミジア肺炎 *11	定点	翌週の月曜日	○		
95		細菌性髄膜炎 *12	定点	翌週の月曜日	○		
96		新型コロナウイルス感染症 *13	定点	翌週の月曜日	○		

No	感染症 類型	対象感染症	届出方法		届出対象		
			種別	時期	患者	疑似症 患者	無症状病原 体保有者
97	五類	水痘	定点	翌週の月曜日	○		
98		性器クラミジア感染症	定点	翌月初日	○		
99		性器ヘルペスウイルス感染症	定点	翌月初日	○		
100		尖圭コンジローマ	定点	翌月初日	○		
101		手足口病	定点	翌週の月曜日	○		
102		伝染性紅斑	定点	翌週の月曜日	○		
103		突発性発しん	定点	翌週の月曜日	○		
104		ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	定点	翌月初日	○		
105		ヘルパンギーナ	定点	翌週の月曜日	○		
106		マイコプラズマ肺炎	定点	翌週の月曜日	○		
107		無菌性髄膜炎	定点	翌週の月曜日	○		
108		メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	定点	翌月初日	○		
109		薬剤耐性緑膿菌感染症	定点	翌月初日	○		
110		流行性角結膜炎	定点	翌週の月曜日	○		
111		流行性耳下腺炎	定点	翌週の月曜日	○		
112		淋菌感染症	定点	翌月初日	○		
113	新型インフル エンザ等 感染症	新型インフルエンザ	全数	直ちに	○	○	○
114		再興型インフルエンザ	全数	直ちに	○	○	○
115		新型コロナウイルス感染症	全数	直ちに	○	○	○
116		再興型新型コロナウイルス感染症	全数	直ちに	○	○	○
117	疑似症	発熱、呼吸器症状、発しん、消化器症状又は神経学的症状その他感染症を疑わせるような症状のうち、医師が一般的に認められている医学的知見に基づき、集中医療その他これに準ずるものが必要であり、かつ、直ちに特定の感染症と診断することができないと判断したもの	定点	直ちに	-	-	-

*1 病原体がベータコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限る

*2 病原体がベータコロナウイルス属MERSコロナウイルスであるものに限る

*3 ウエストナイル脳炎を含む

*4 病原体がフレボウイルス属SFTSウイルスであるものに限る

*5 鳥インフルエンザ（H5N1及びH7N9）を除く

*6 E型肝炎及びA型肝炎を除く

*7 急性灰白髄炎を除く

*8 ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く

*9 患者が入院を要すると認められるものに限る

*10 鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く

*11 オウム病を除く

*12 インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因として同定された場合を除く

*13 病原体がベータコロナウイルス属のコロナウイルス（令和二年一月に中華人民共和国から世界保健機構に対して、人に伝染する能力を有することが新たに報告されたものに限る。）であるものに限る。

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律の施行に伴う感染症発生動向調査事業の実施について
（平成11年3月19日健医発第458号通知）

（令和5年5月2日健発0502第1号改正）2023年5月8日施行

（令和5年5月26日健発0526第10号改正）2023年5月28日施行

表1-16 全数把握感染症の月別届出数（2023年）

類型	感染症名	届出数												
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
一類	エボラ出血熱													
	クリミア・コンゴ出血熱													
	痘そう													
	南米出血熱													
	ペスト													
	マールブルグ病													
	ラッサ熱													
二類	急性灰白髄炎													
	結核	11	8	7	13	7	12	5	8	5	13	20	7	116
	ジフテリア													
	重症急性呼吸器症候群													
	中東呼吸器症候群													
	鳥インフルエンザ（H5N1）													
三類	鳥インフルエンザ（H7N9）													
	コレラ													
	細菌性赤痢													
	腸管出血性大腸菌感染症	1			1	2	3	6	6	3	4	8	5	39
	腸チフス													
四類	パラチフス													
	E型肝炎		1	1		1	4			1	1	1		10
	ウエストナイル熱													
	A型肝炎													
	エキノコックス症													
	エムボックス*	1				1						1		3
	黄熱													
	オウム病													
	オムスク出血熱													
	回帰熱													
	キャサヌル森林病													
	Q熱													
	狂犬病													
	コクシジオイデス症				1					1		2		4
	ジカウイルス感染症													
	重症熱性血小板減少症候群													
	腎症候性出血熱													
	西部ウマ脳炎													
	ダニ媒介脳炎													
	炭疽													
	チクングニア熱													
	つつが虫病												1	1
	デング熱													
	東部ウマ脳炎													
	鳥インフルエンザ（H5N1・H7N9除く）													
	ニパウイルス感染症													
	日本紅斑熱													
	日本脳炎													
	ハンタウイルス肺症候群													
	Bウイルス病													
	鼻疽													
	ブルセラ症													
	ベネズエラウマ脳炎													
	ヘンドラウイルス感染症													

類型	感染症名	届出数												
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
四類	発しんチフス													
	ボツリヌス症													
	マラリア													
	野兔病													
	ライム病													
	リッサウイルス感染症													
	リフトバレー熱													
	類鼻疽													
	レジオネラ症					1	3		1			1		6
	レプトスピラ症													
	ロッキー山紅斑熱													
五類	アメルバ赤痢			1		1								2
	ウイルス性肝炎				5									5
	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症**		4	1	1	4	1	6	1		2	1	1	22
	急性弛緩性麻痺													
	急性脳炎						2	3	3	1	1	2	3	15
	クリプトスポリジウム症													
	クロイツフェルト・ヤコブ病				1				1	1				3
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1	1			1		1			1	2	1	8
	後天性免疫不全症候群	1	1									1		3
	ジアルジア症									1				1
	侵襲性インフルエンザ菌感染症		1		1					1			1	4
	侵襲性髄膜炎菌感染症			1										1
	侵襲性肺炎球菌感染症		1		2	1		2	1			1	1	9
	水痘（入院例）									1				1
	先天性風しん症候群													
	梅毒	5	6	8	6	7	6	8	3	7	7	5	3	71
	播種性クリプトコックス症		1		1							1		3
	破傷風													
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症													
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症													
	百日咳												1	1
	風しん													
	麻しん						1							1
	薬剤耐性アシネトバクター感染症													
新型インフルエンザ等感染症	新型インフルエンザ													
	再興型インフルエンザ													
	新型コロナウイルス感染症（COVID-19）***	4,442	836	303	427	127								6,135
	再興型新型コロナウイルス感染症													
計		4,462	860	322	459	153	32	31	24	22	29	46	24	6,464

* エムボックスは、令和5年5月26日の「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律施行令」の一部改正により、同年同日付けで名称が「サル痘」から「エムボックス」に変更された。

** カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症は、令和5年5月26日の「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律施行規則」の一部改正により、同年同日付けで名称が「カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症」から「カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症」に変更された。

*** 新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は、令和5年4月28日の「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律施行規則」の一部改正により、同年5月8日付けで「新型インフルエンザ等感染症」から「5類感染症」に分類が変更され、すべての医療機関から患者の報告を受ける全数把握から、週に1回、特定の医療機関から患者の報告を受ける定点把握に移行した。

表1-17 全数把握感染症の年別届出数（2019年-2023年）

類型	感染症名	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
一類	エボラ出血熱					
	クリミア・コンゴ出血熱					
	痘そう					
	南米出血熱					
	ペスト					
	マールブルグ病					
	ラッサ熱					
二類	急性灰白髄炎					
	結核	167	155	133	143	116
	ジフテリア					
	重症急性呼吸器症候群					
	中東呼吸器症候群					
	鳥インフルエンザ（H5N1）					
	鳥インフルエンザ（H7N9）					
三類	コレラ					
	細菌性赤痢					
	腸管出血性大腸菌感染症	19	20	24	30	39
	腸チフス		2			
	パラチフス					
四類	E型肝炎	9	4	4	13	10
	ウエストナイル熱					
	A型肝炎	6		1		
	エキノコックス症					
	エムボックス*					3
	黄熱					
	オウム病					
	オムスク出血熱					
	回帰熱					
	キャサヌル森林病					
	Q熱					
	狂犬病					
	コクシジオイデス症	1				4
	ジカウイルス感染症					
	重症熱性血小板減少症候群					
	腎症候性出血熱					
	西部ウマ脳炎					
	ダニ媒介脳炎					
	炭疽					
	チクングニア熱					
	つつが虫病			1	1	1
	デング熱	3	2		1	
	東部ウマ脳炎					
	鳥インフルエンザ					
	ニパウイルス感染症					
	日本紅斑熱		1	1		
	日本脳炎					
	ハンタウイルス肺症候群					
	Bウイルス病					
	鼻疽					
	ブルセラ症					
	ベネズエラウマ脳炎					
	ヘンドラウイルス感染症					

類型	感染症名	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
四類	発しんチフス					
	ボツリヌス症					
	マラリア					
	野兔病					
	ライム病				2	
	リッサウイルス感染症					
	リフトバレー熱					
	類鼻疽					
	レジオネラ症	15	13	13	12	6
	レプトスピラ症					
	ロッキー山紅斑熱					
五類	アメーバ赤痢	6	1	3	6	2
	ウイルス性肝炎		4	4		5
	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症**	21	13	15	20	22
	急性弛緩性麻痺	1				
	急性脳炎	15	10	11	9	15
	クリプトスポリジウム症					
	クロイツフェルト・ヤコブ病	3	2	5		3
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	9	4	4	5	8
	後天性免疫不全症候群	6	2		2	3
	ジアルジア症			1	1	1
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	7	2		3	4
	侵襲性髄膜炎菌感染症					1
	侵襲性肺炎球菌感染症	12	5	10	10	9
	水痘（入院例）	5	1		3	1
	先天性風しん症候群					
	梅毒	34	24	48	52	71
	播種性クリプトコックス症	2				3
	破傷風	2			1	
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症					
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症				1	
	百日咳	137	10	1	1	1
	風しん	48	2	1		
	麻しん	3				1
	薬剤耐性アシネトバクター感染症					
新型インフルエンザ等感染症	新型インフルエンザ					
	再興型インフルエンザ					
	新型コロナウイルス感染症（COVID-19）***	-	-	13976	152,784	6,135
	再興型新型コロナウイルス感染症					
指定	新型コロナウイルス感染症（COVID-19）***	-	1729	2,445	-	-

* エムボックスは、令和5年5月26日の「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律施行令」の一部改正により、同年同日付けで名称が「サル痘」から「エムボックス」に変更された。

** カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症は、令和5年5月26日の「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律施行規則」の一部改正により、同年同日付けで名称が「カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症」から「カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症」に変更された。

*** 新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は、令和3年2月13日の「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」の改正施行により、「指定感染症」から「新型インフルエンザ等感染症」に分類が変更され、令和5年4月28日の「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律施行規則」の一部改正により、同年5月8日付けで「新型インフルエンザ等感染症」から「5類感染症」に分類が変更され、すべての医療機関から患者の報告を受ける全数把握から、週に1回、特定の医療機関から患者の報告を受ける定点把握に移行した。

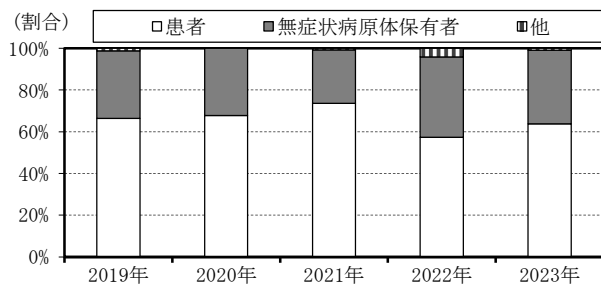


図1-1-1 結核 過去5年の診断類型の割合の推移

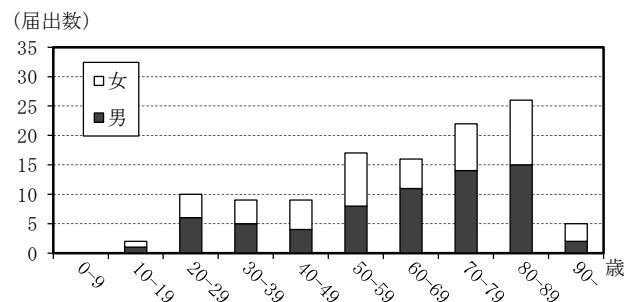


図1-1-2 結核 性別及び年代別届出数

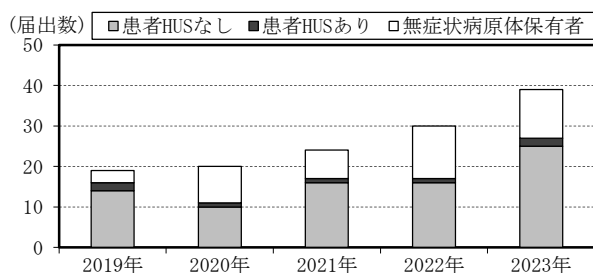


図1-2-1 腸管出血性大腸菌感染症
過去5年の類型別届出数の推移

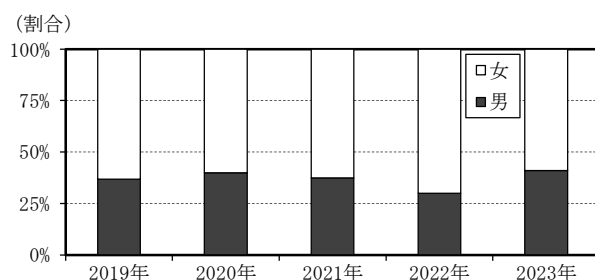


図1-2-2 腸管出血性大腸菌感染症
過去5年の届出数に対する性別比の推移

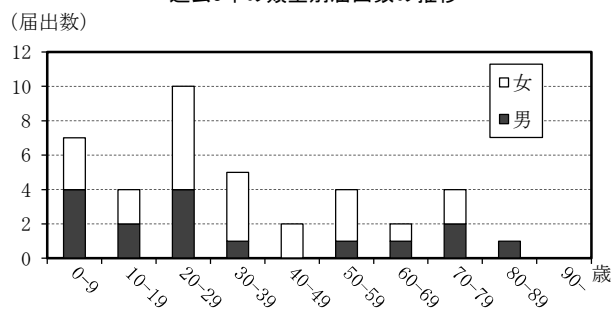


図1-2-3 腸管出血性大腸菌感染症
性別及び年代別届出数

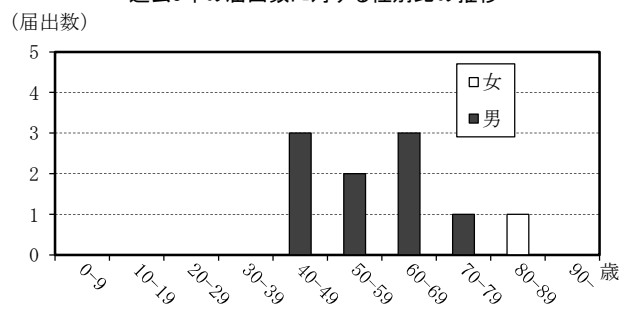


図1-3 E型肝炎 性別及び年代別届出数

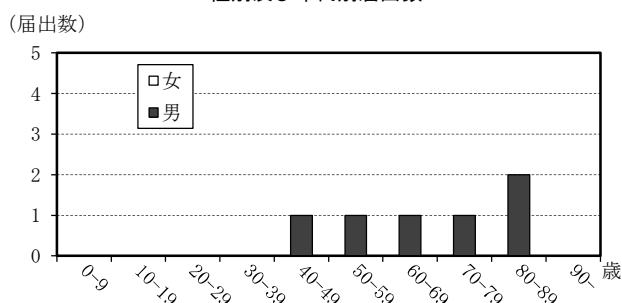


図1-4 レジオネラ症 性別及び年代別届出数

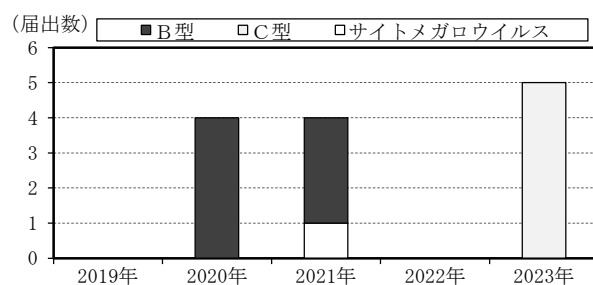


図1-5-1 ウイルス性肝炎 過去5年の病型別届出数の推移

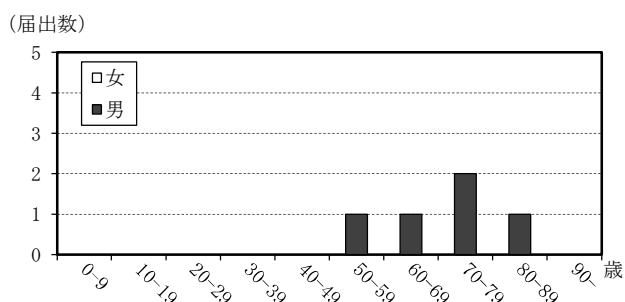


図1-5-2 ウイルス性肝炎 性別及び年代別届出数

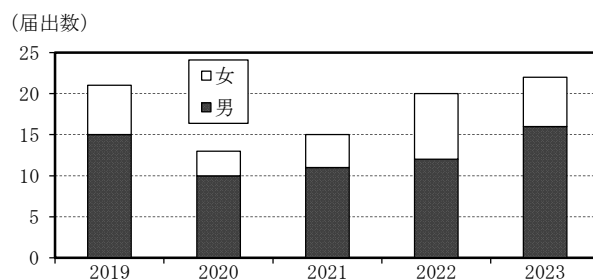


図1-6-1 カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症
過去5年の性別届出数の推移

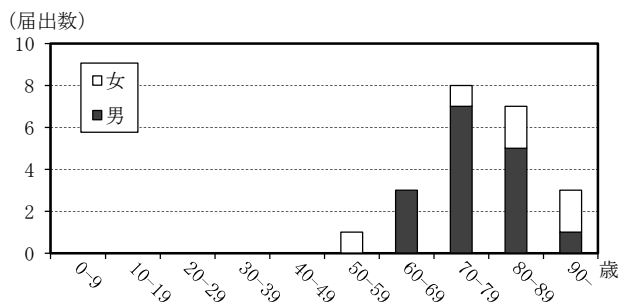


図1-6-2 カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症
性別及び年代別届出数

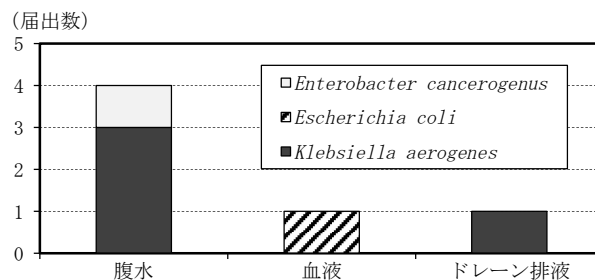


図1-6-3 カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症
無菌的であるべき検体種別及び検出菌

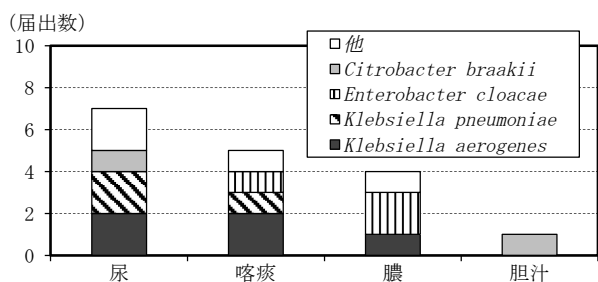


図1-6-4 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症
無菌的ではない検体種別及び検出菌

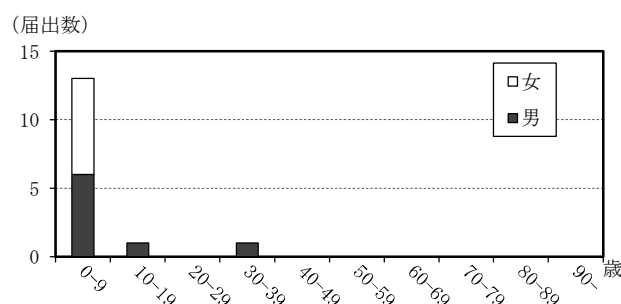


図1-7 急性脳炎 性別及び年代別届出数

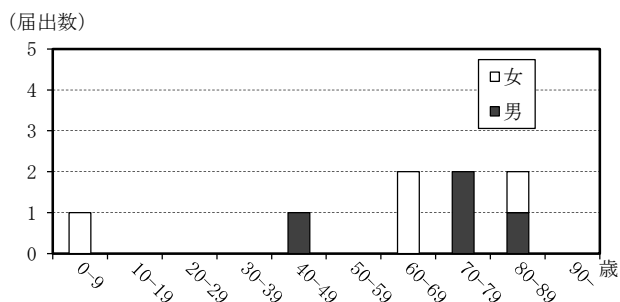


図1-8-1 劇症型溶血性レンサ球菌感染症 性別及び年代別届出数

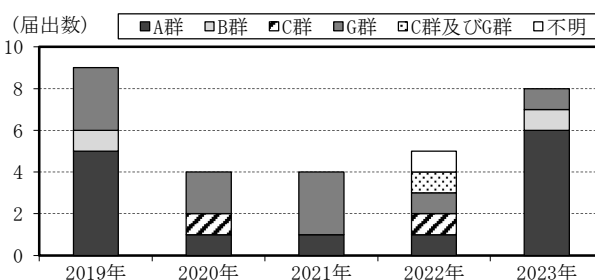


図1-8-2 劇症型溶血性レンサ球菌感染症
過去5年の血清群別届出数の推移

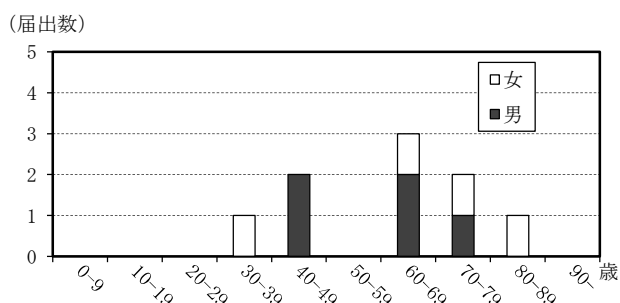


図1-9 侵襲性肺炎球菌感染症 性別及び年代別届出数

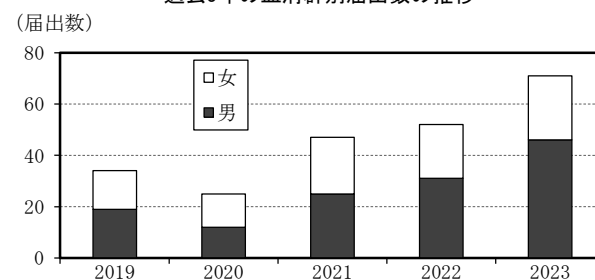


図1-10-1 梅毒 過去5年の性別届出数の推移

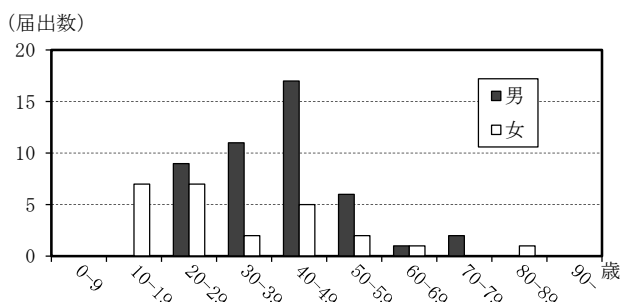


図1-10-2 梅毒
性別及び年代別届出数

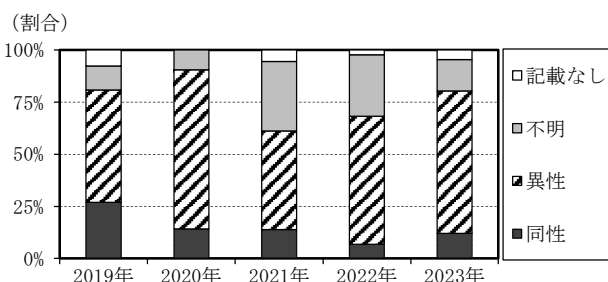


図1-10-3 梅毒
過去5年の性的接触届出数に対するパートナー別比の推移

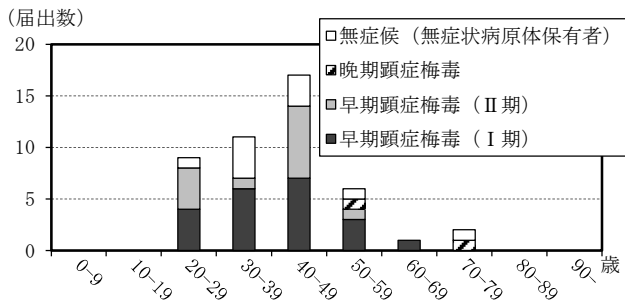


図1-10-4 梅毒 年代別及び病型別届出数(男)

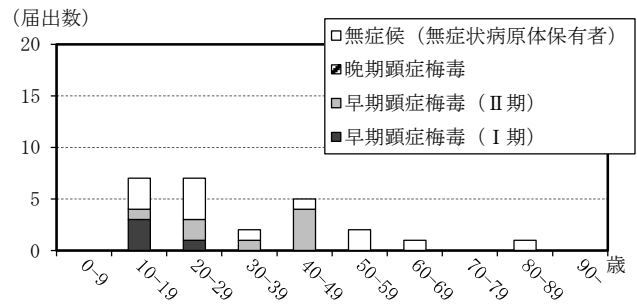


図1-10-5 梅毒 性別及び年代別届出数(女)

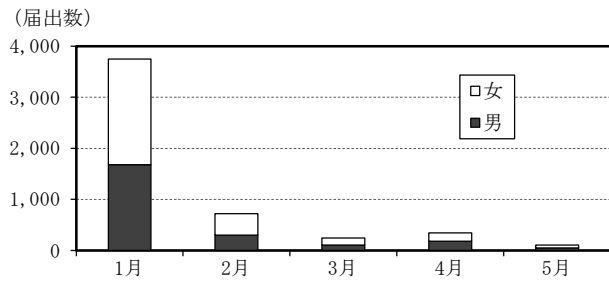


図1-11-1 新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) 性別及び月別届出数(65歳以上:1月1日-5月7日)

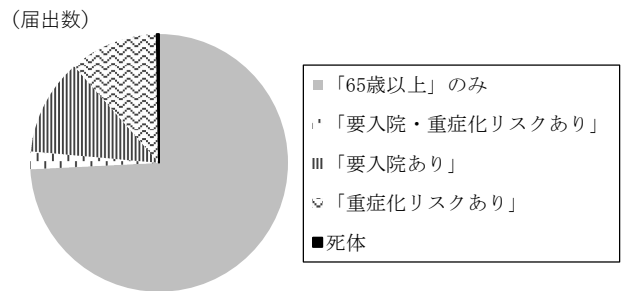


図1-11-2 新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) 類型別届出数の割合(65歳以上:1月1日-5月7日)

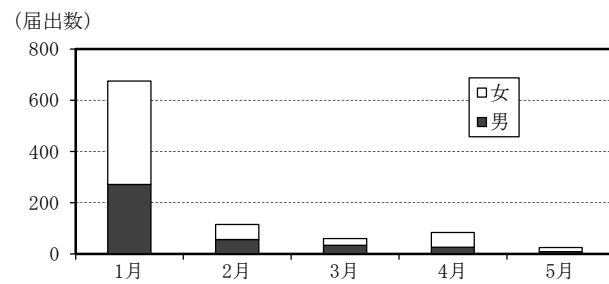


図1-11-3 新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) 性別及び月別届出数(65歳未満:1月1日-5月7日)

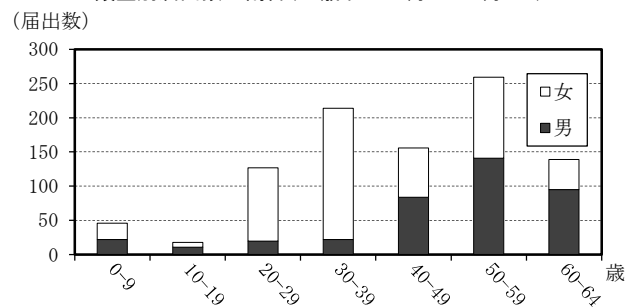


図1-11-4 新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) 性別及び年代別届出数(65歳未満:1月1日-5月7日)

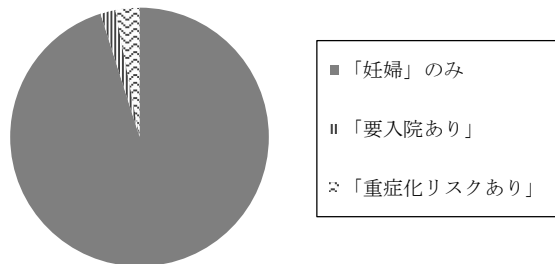


図1-11-5 新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) 類型別届出数の割合(65歳未満・妊婦:1月1日-5月7日)

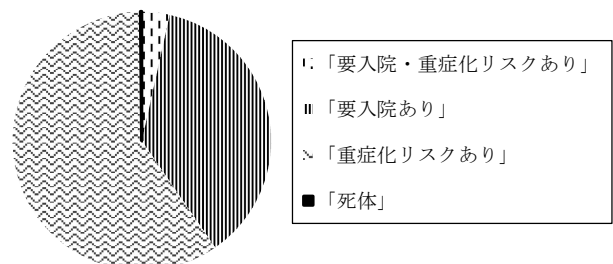


図1-11-6 新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) 類型別届出数の割合(65歳未満・妊婦以外:1月1日-5月7日)

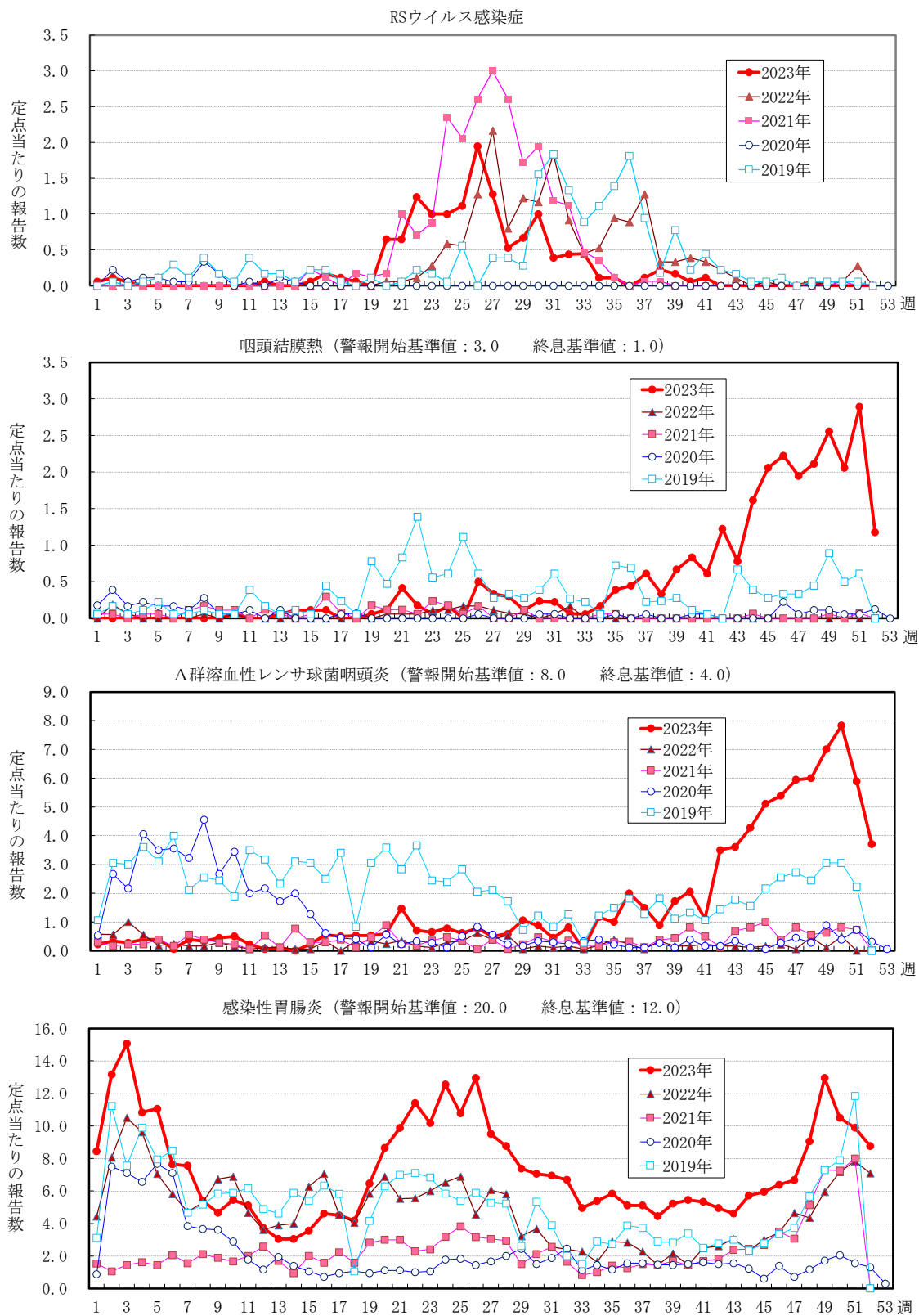


図2-1 定点把握感染症（小児科）報告数の年別推移（2019年-2023年）

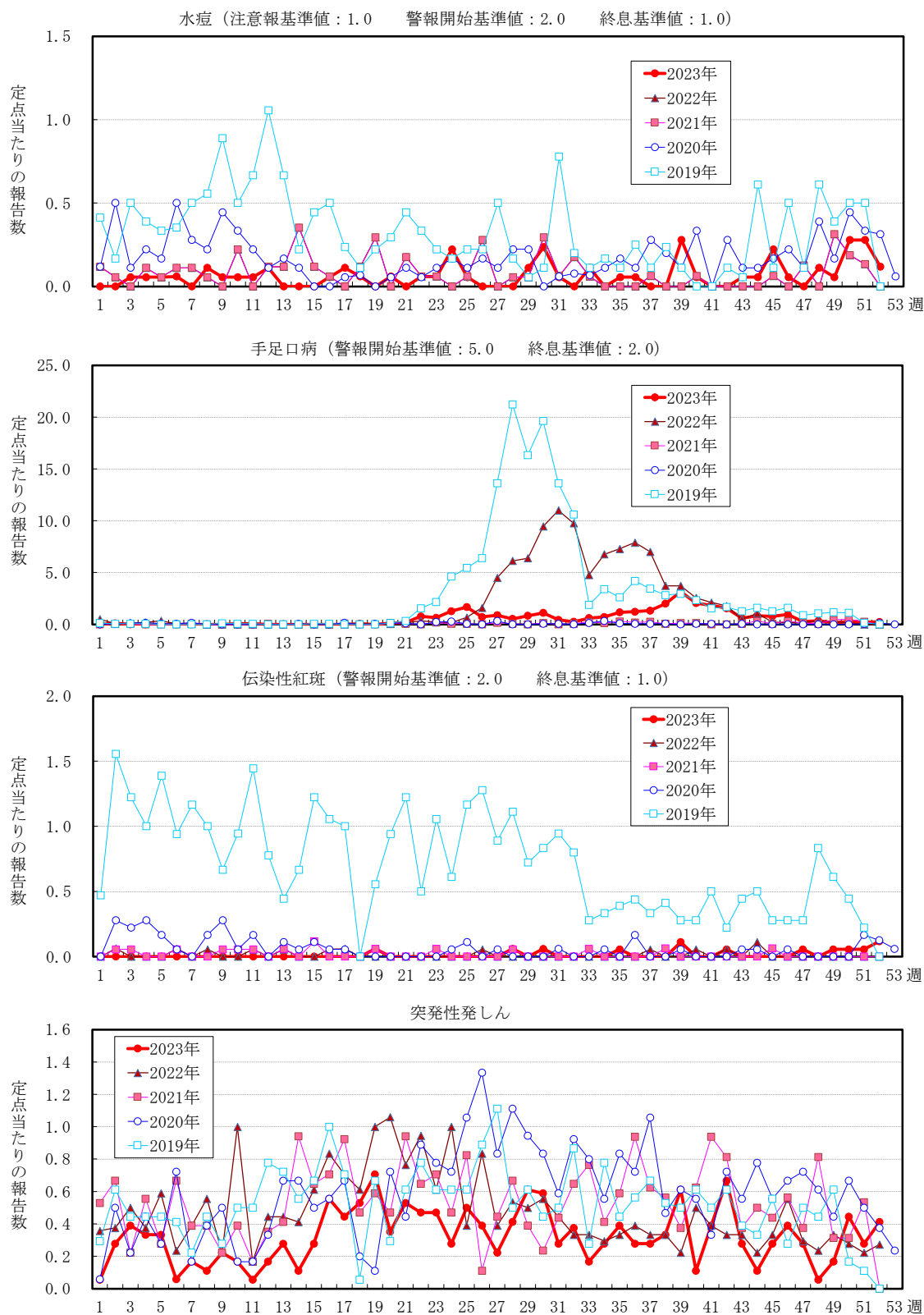


図2-1 定点把握感染症（小児科）報告数の年別推移（2019年-2023年）

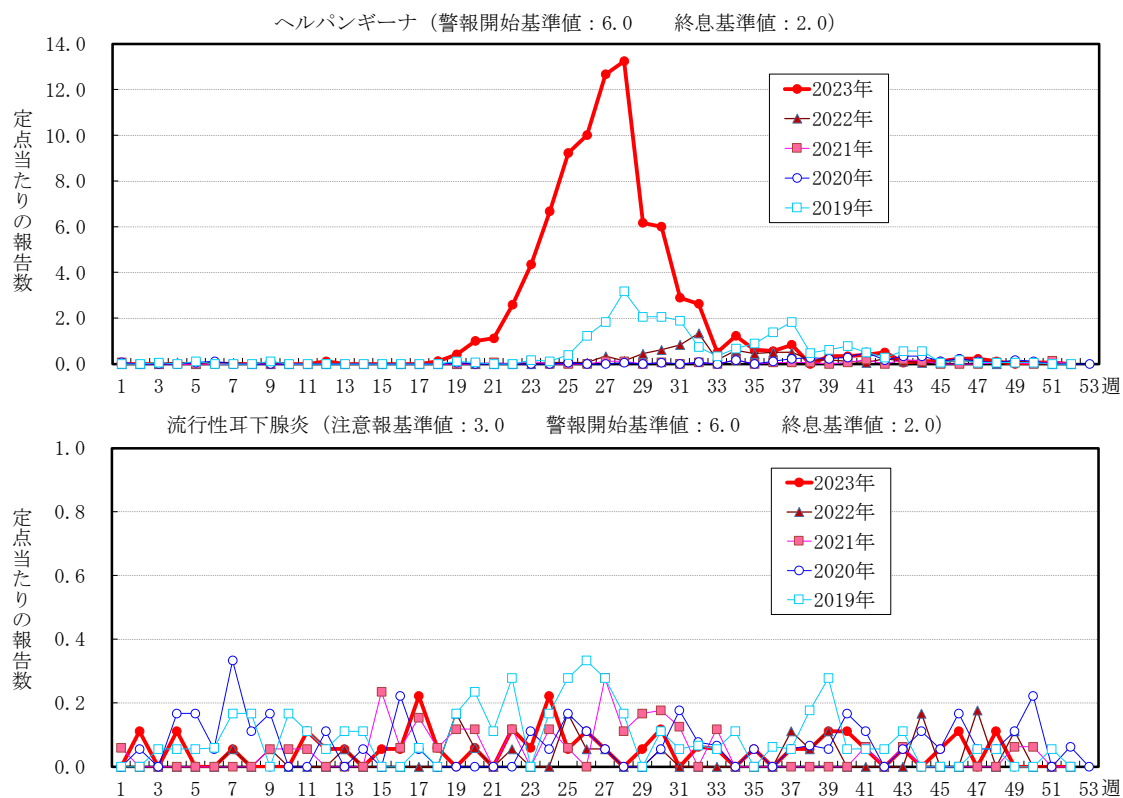


図2-1 定点把握感染症（小児科）報告数の年別推移（2019年-2023年）

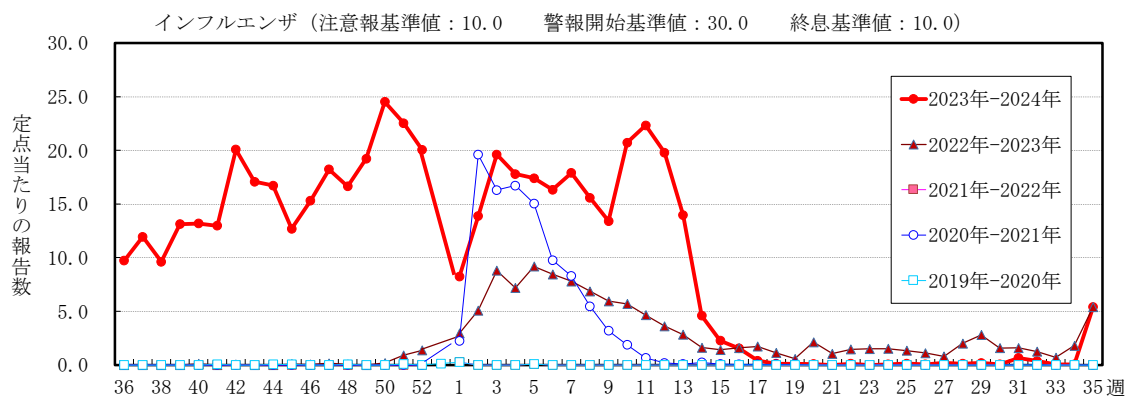


図2-2-1 定点把握感染症（インフルエンザ・COVID-19）報告数のシーズン別推移
(2019年-2020年/2023年-2024年)

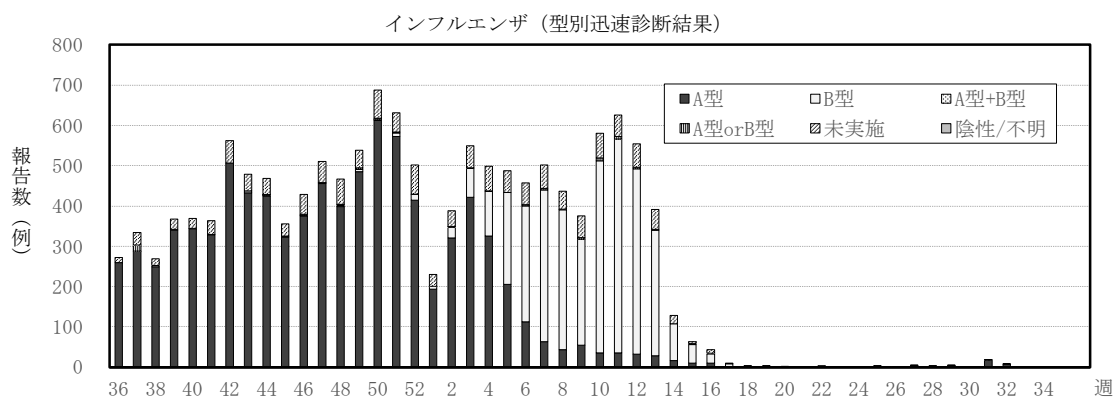


図2-2-2 型別迅速診断結果（2023年-2024年）

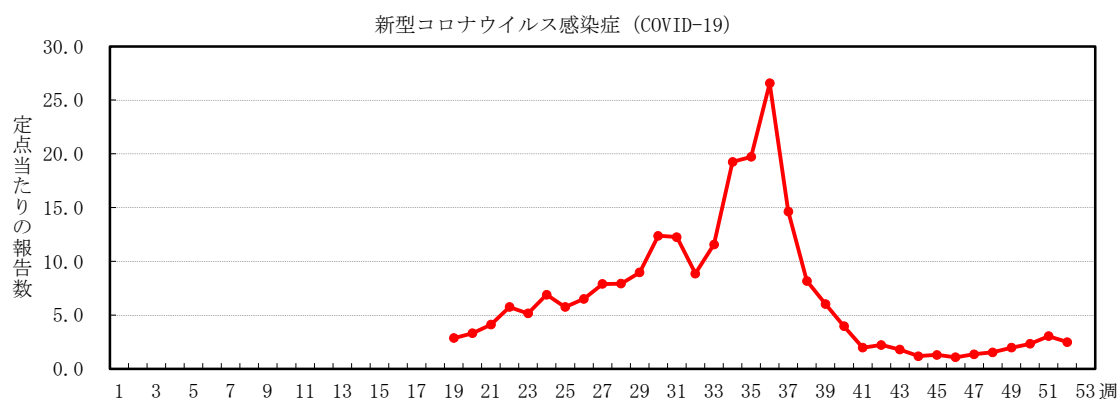


図2-2-3 定点把握感染症（インフルエンザ・COVID-19）報告数の年別推移（2023年）

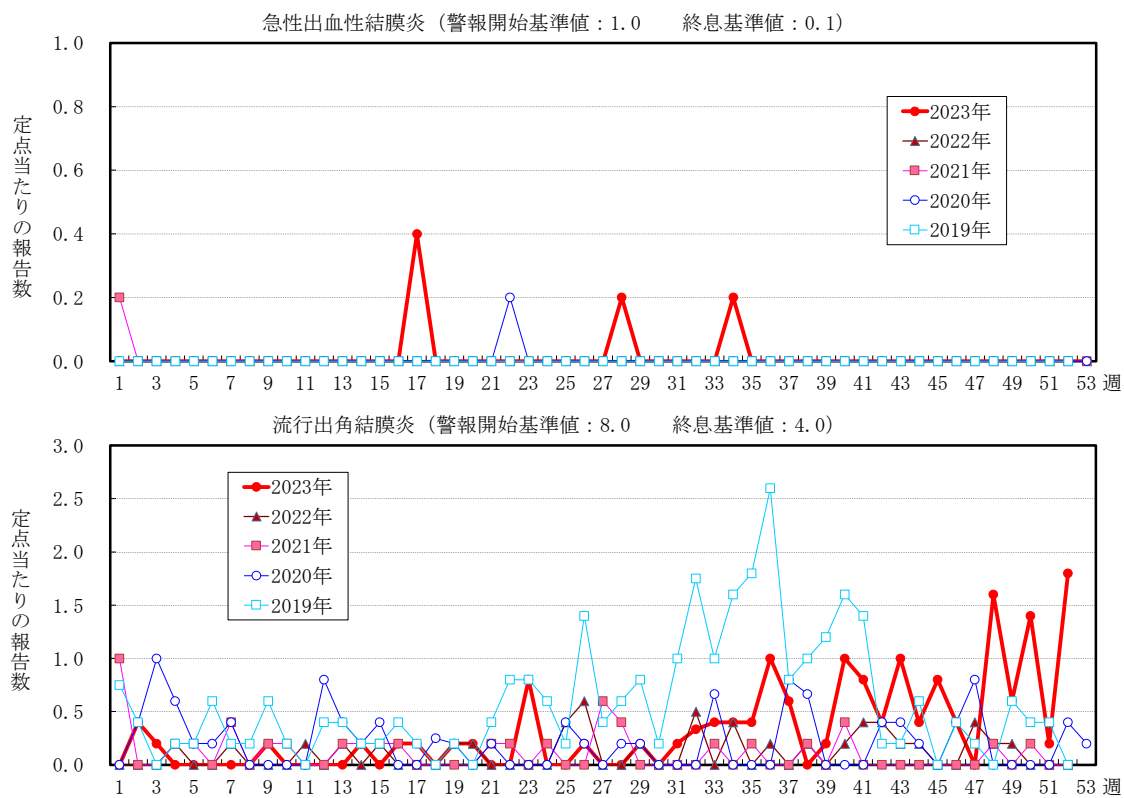


図2-3 定点把握感染症（眼科）報告数の年別推移（2019年-2023年）

表1-18 定点把握性感染症月別報告数（2023年）

種類	感染症名		月別件数												計
			1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
五類	性器クラミジア感染症	男	132	106	40	9	7	8	9	2	4	4	3	7	331
			18.9	15.1	5.7	1.5	1.0	1.1	1.3	0.3	0.7	0.7	0.5	1.0	4.1
		女	8	5	5	10	10	9	4	8	5	7	6	4	81
			1.1	0.7	0.7	1.7	1.4	1.3	0.6	1.1	0.8	1.2	1.0	0.6	1.0
		計	140	111	45	19	17	17	13	10	9	11	9	11	412
五類	性器ヘルペスウイルス感染症	男	2	2	1	0	1	2	4	1	2	1	0	2	18
			0.3	0.3	0.1	0.0	0.1	0.3	0.6	0.1	0.3	0.2	0.0	0.3	0.2
		女	10	1	2	4	5	7	6	7	5	4	1	12	64
			1.4	0.1	0.3	0.7	0.7	1.0	0.9	1.0	0.8	0.7	0.2	1.7	0.8
		計	12	3	3	4	6	9	10	8	7	5	1	14	82
五類	尖圭コンジローマ	男	14	5	6	1	7	5	2	1	0	2	0	2	45
			2.0	0.7	0.9	0.2	1.0	0.7	0.3	0.1	0.0	0.3	0.0	0.3	0.6
		女	5	0	5	5	1	3	2	1	6	6	3	5	42
			0.7	0.0	0.7	0.8	0.1	0.4	0.3	0.1	1.0	1.0	0.5	0.7	0.5
		計	19	5	11	6	8	8	4	2	6	8	3	7	87
五類	淋菌感染症	男	15	6	6	5	2	3	2	2	0	3	1	3	48
			2.1	0.9	0.9	0.8	0.3	0.4	0.3	0.3	0.0	0.5	0.2	0.4	0.6
		女	0	1	1	1	0	0	0	0	0	1	2	1	7
			0.0	0.1	0.1	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	0.3	0.1	0.1
		計	15	7	7	6	2	3	2	2	0	4	3	4	55
-	非クラミジア性非淋菌性尿道炎	男	20	17	20	28	17	17	19	8	4	2	7	6	165
			2.9	2.4	2.9	4.7	2.4	2.4	2.7	1.1	0.7	0.3	1.2	0.9	2.1
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		計	20	17	20	28	17	17	19	8	4	2	7	6	165

上段：報告数、下段：定点あたりの報告数

表1-19 基幹定点把握感染症月別報告数（2023年）

種類	感染症名		月別件数												計
			1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
五類	メチシリン耐性ブドウ球菌感染症	男	4	1	0	0	2	3	2	2	8	6	3	4	35
		女	0	2	1	1	1	2	0	1	2	4	0	1	15
		計	4	3	1	1	3	5	2	3	10	10	3	5	50
五類	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	男	0	0	0	0	0	1	2	1	0	0	1	0	5
		女	0	0	0	0	0	1	1	0	1	0	1	0	4
		計	0	0	0	0	0	2	3	1	1	0	2	0	9
五類	薬剤耐性緑膿菌感染症	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

定点あたりの報告数

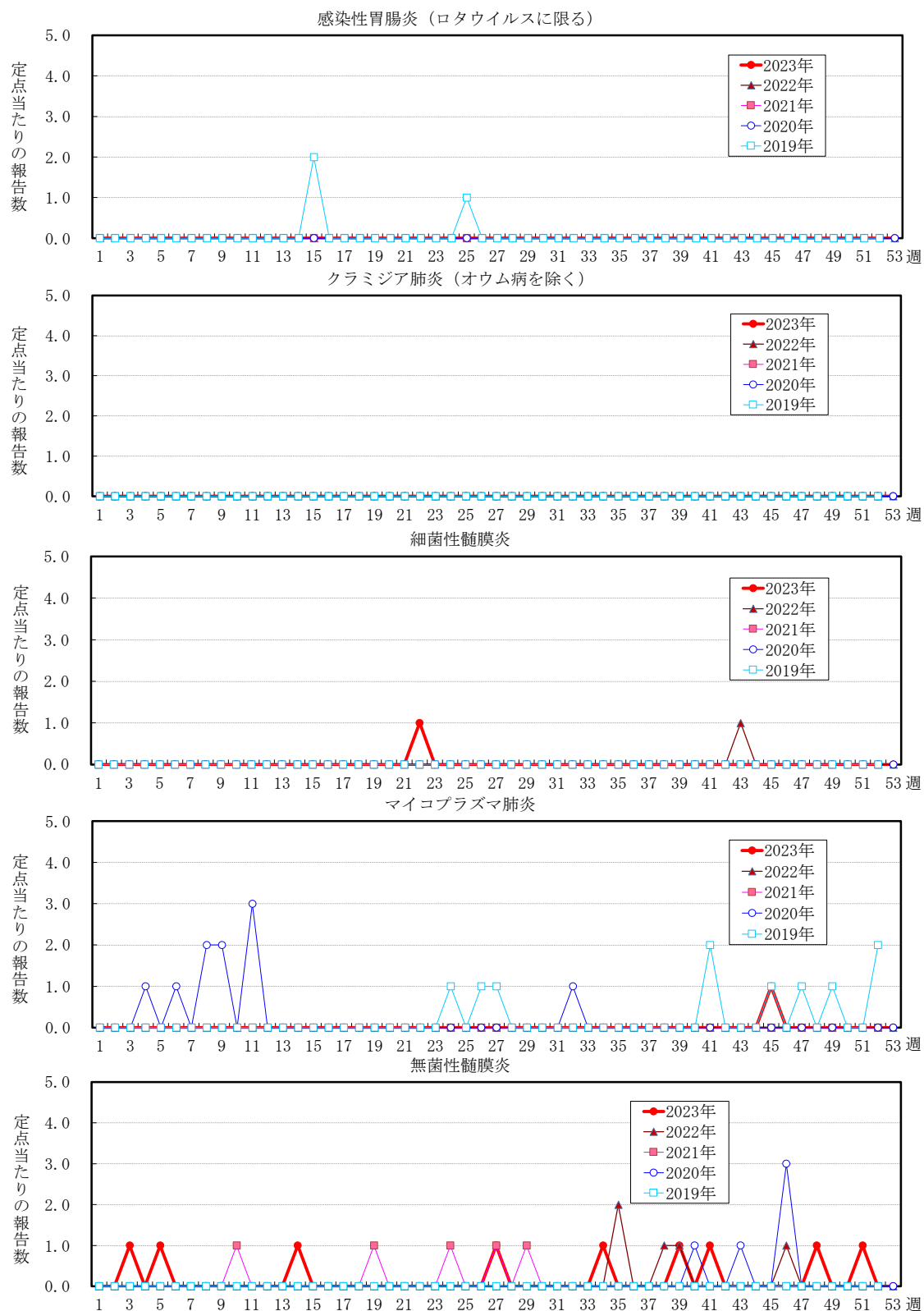


図2-4 定点把握感染症（基幹）報告数の年別推移（2019年-2023年）